

まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画） 推進事業自己評価結果

2023 年度～2024 年度に推進事業担当課が毎年度実施した自己評価の結果です。推進事業の内容については、「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」の 24 ページから 64 ページをご覧ください。以下、資料の見方です。

事業名称		担当課	
1 【重点事業】バリアフリー基本構想の進行管理		担当課：交通事業推進課	
1-1 実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度
	●バリアフリー基本構想の進行管理（毎年度）		
	●バリアフリー基本構想の改定を 1 地区	●バリアフリー基本構想改定 対象地区の検討等 1 地区	●バリアフリー基本構想改定 対象地区の検討等
—		●全地区のバリアフリー基本構想に教育啓発 特定事業を追加	
1-2 事業実施の進捗状況		2023 年度	
		◎：順調	
1-3 取組内容		2024 年度	
・全地区（10 地区）のバリアフリー基本構想の特定事業計画の進捗状況について事業の実施主体に実績照会を行うとともに、各実施主体に対して計画的な事業実施の依頼を行いました。		・同左	
・まちの状況変化等を踏まえ、相原駅周辺地区バリアフリー基本構想の改定を行い、エリアや対象施設・経路・特定事業などの見直しを行うとともに、新たに教育啓発特定事業及びソフト対策事業（合理的配慮）を位置づけ、ハード・ソフト両面からバリアフリー化を推進していくことを明記しました。		・まちの状況変化等を踏まえ、成瀬駅周辺地区バリアフリー基本構想の改定を行い、エリアや対象施設・経路・特定事業などの見直しを行うとともに、新たに教育啓発特定事業及びソフト対策事業（合理的配慮）を位置づけ、ハード・ソフト両面からバリアフリー化を推進していくことを明記しました。	
1-4 プロセス評価		2023 年度	
意見聴取		◎：意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたっては、地域住民、高齢者、障がい者等にバリアフリー部会員として検討に参画いただきました。 また、まち歩き点検の際には、地域住民、高齢者、障がい者等を追加募集し、より多くの方の意見を取り入れる機会を設けました。	
協働		◎：事業者や団体と協働する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定を検討するバリアフリー部会及びまち歩き点検には地域住民、高齢者、障がい者等及び事業者に参画いただき協働の場としました。	
庁内連携		◎：庁内各課と連携する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたり、教育啓発特定事業の調整に際しては、「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」の関連事業（12、13）の所管部署と調整を行いました。	
広報・PR		◎：広報・PR を行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたっては、広報まちだや市のホームページにて各種（諮問、市民意見募集実施、答申・策定）の情報発信を行いました。	
		2024 年度	
意見聴取		◎：意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたっては、地域住民、高齢者、障がい者等にバリアフリー部会員として検討に参画いただきました。 また、まち歩き点検の際には、地域住民、高齢者、障がい者等を追加募集し、より多くの方の意見を取り入れる機会を設けました。	
協働		◎：事業者や団体と協働する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 同左	
庁内連携		◎：庁内各課と連携する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたり、教育啓発特定事業の調整に際しては、「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」の関連事業（12、13）の所管部署及び近隣小中学校と調整を行いました。また、その他の特定事業の調整に際しても各施設を所管する部署と綿密な調整を行いました。	
広報・PR		◎：広報・PR を行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたっては、広報まちだや市のホームページにて各種（諮問、市民意見募集実施、答申・策定）の情報発信を行いました。また、2024 年度の新たな試みとして市民意見募集を実施する際にプレスリリースを実施し、地方紙や全国紙の記事にも取り上げられるなど積極的な P R を行いました。	

【意見聴取】障がい者等の市民（当事者）の意見を聞き、事業を実施しましたか？

【協働】市民や事業者と協働して事業を実施しましたか？

【庁内連携】関係する課や関連する事業と連携しながら事業を実施しましたか？

【広報・PR】広報やホームページ等により市民に事業の実施状況や必要な情報を公表・周知しましたか？

1-4 プロセス評価	
	2023年度
意見聴取	◎：意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った。 基本構想改定にあたっては、地域住民、高齢者、障がい者等にバリアフリー部会員として検討に参画いただきました。 また、まち歩き点検の際には、地域住民、高齢者、障がい者等を追加募集し、より多くの方の意見を取り入れる機会を設けました。
協働	◎：事業者や団体と協働する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った。 基本構想改定を検討するバリアフリー部会及びまち歩き点検には地域住民、高齢者、障がい者等及び事業者に参画いただき協働の場となりました。
庁内連携	◎：庁内各課と連携する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った。 基本構想改定にあたり、教育啓発特定事業の調整に際しては、「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」の関連事業（12、13）の所管部署と調整を行いました。
広報・PR	◎：広報・PRを行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った。 基本構想改定にあたっては、広報まちだや市のホームページにて各種（諮問、市民意見募集実施、答申・策定）の情報発信を行いました。
	2024年度
意見聴取	◎：意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った。 基本構想改定にあたっては、地域住民、高齢者、障がい者等にバリアフリー部会員として検討に参画いただきました。 また、まち歩き点検の際には、地域住民、高齢者、障がい者等を追加募集し、より多くの方の意見を取り入れる機会を設けました。
協働	◎：事業者や団体と協働する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った。 同左
庁内連携	◎：庁内各課と連携する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った。 基本構想改定にあたり、教育啓発特定事業の調整に際しては、「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」の関連事業（12、13）の所管部署及び近隣小中学校と調整を行いました。また、その他の特定事業の調整に際しても各施設を所管する部署と綿密な調整を行いました。
広報・PR	◎：広報・PRを行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った。 基本構想改定にあたっては、広報まちだや市のホームページにて各種（諮問、市民意見募集実施、答申・策定）の情報発信を行いました。また、2024年度の新たな試みとして市民意見募集を実施する際にプレスリリースを実施し、地方紙や全国紙の記事にも取り上げられるなど積極的なPRを行いました。

A

A

A

A

A

【◎】意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った。

【○】意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた。

意見聴取を実施する予定はなかったが、必要を感じ意見聴取を実施した。

【△】意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た（自ら働きかけはしていない）。

【－】意見聴取を実施しなかった。

*それぞれ、「意見聴取を実施する」のところを、「事業者や団体と協働する」「庁内各課と連携する」「広報・PRを行う」と読み替える。

《推進分野1 施設等整備のユニバーサルデザインの推進》

車椅子利用者対応トイレの拡張等、より一層の施設整備に取り組みます。また、心のバリアフリー等のソフト対策を、バリアフリー基本構想に追加し、ハード対策とソフト対策を一体的に推進します。

進捗状況の凡例：◎順調 ○概ね順調 △改善が必要

No	推進事業名称（◆：重点事業）	担当課 （回答した課）	進捗状況		ページ数
			2023 年度	2024 年度	
(1)	◆バリアフリー基本構想の進行管理	交通事業推進課	◎	◎	6
(2)	◆福祉のまちづくり総合推進条例・適合証制度の普及啓発	福祉総務課 土地利用調整課	○ ○	○ ○	9
(3)	バリアフリー、ユニバーサルデザインによる市の建築物の整備	福祉総務課 土地利用調整課	○ —	○ —	12
(4)	ユニバーサルデザインによる市立学校の教育環境整備	施設課・新たな学 校づくり推進課	○	○	14
(5)	歩道のバリアフリー改善整備（歩道整備・舗装補修）	道路整備課 道路維持課	◎ ○	◎ ○	16
(6)	放置自転車対策	道路管理課	○	○	19
(7)	バリアフリー、ユニバーサルデザインによる公園の整備	公園緑地課	○	△	21
(8)	公共トイレ計画の推進	環境共生課	◎	○	23
(9)	住宅バリアフリー化改修工事の助成・住宅改修アドバイザーの派遣	住宅課 介護保険課 障がい福祉課	◎ ◎ ◎	○ ◎ ◎	25
(10)	交通環境・地域で支える交通（移動支援）の整備	交通事業推進課 高齢者支援課	○ ◎	○ ◎	30
(11)	共同配車センターの運営	福祉総務課 社会福祉協議会	○ ○	○ ○	35

《推進分野2 心と情報のユニバーサルデザインの推進》

これまで以上に学校と連携した、新たな心のバリアフリーの普及・啓発を行います。また、デジタル化に対応した情報のユニバーサルデザインに取り組みます。

進捗状況の凡例：◎順調 ○概ね順調 △改善が必要

No	推進事業名称（◆：重点事業）	担当課 (回答した課)	進捗状況		ページ数
			2023 年度	2024 年度	
(12)	◆心のバリアフリー、ユニバーサルデザインの普及啓発	福祉総務課	◎	◎	40
(13)	市立小・中学校での心のバリアフリー教育の推進	教育センター 指導課	○	○	43
(14)	福祉教育の実施	社会福祉協議会 福祉総務課	○ ○	○ —	45
(15)	生涯学習におけるユニバーサルデザインの啓発	生涯学習センター	◎	○	48
(16)	市職員の心のバリアフリー研修の実施	職員課 福祉総務課	◎ ◎	◎ ◎	51
(17)	交通安全情報の発信及び交通安全学習の充実	市民生活安全課	◎	◎	55
(18)	◆情報のバリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	福祉総務課 広報課	◎ ○	◎ ○	58
(19)	手話通訳者・要約筆記者の派遣	障がい福祉課	○	○	63
(20)	「高齢者のための暮らしのてびき」及び「障がい者サービスガイドブック」の作成	いきいき総務課 障がい福祉課	◎ ◎	◎ ◎	65
(21)	「まちだ子育てサイト」による子育て情報の発信	子ども総務課	○	○	69
(22)	図書館サービスのユニバーサルデザイン整備	図書館	○	○	72
(23)	「町田市バリアフリーマップ」の整備	福祉総務課	◎	◎	75

《推進分野3 災害対策のユニバーサルデザインの推進》

発災時には避難施設としての機能を有する学校のバリアフリー化等、ハード面の災害対策に取り組みます。また、避難行動要支援者の名簿の作成や、多様な媒体による防災情報の発信等、ソフト面の災害対策にも取り組みます。

進捗状況の凡例：◎順調 ○概ね順調 △改善が必要

No	推進事業名称（◆：重点事業）	担当課 (回答した課)	進捗状況		ページ数
			2023 年度	2024 年度	
(24)	◆避難施設のユニバーサルデザイン整備	施設課・新たな学校づくり推進課 防災課	○ ○	○ ○	77
(25)	避難行動要支援者名簿の作成	福祉総務課	○	○	81
(26)	二次避難施設（福祉避難所）の確保	障がい福祉課 いきいき総務課	◎ ○	◎ ◎	83
(27)	避難経路等のユニバーサルデザイン整備	道路整備課 住宅課	◎ ○	◎ ○	87
(28)	避難輸送の体制整備	福祉総務課 障がい福祉課 いきいき総務課 社会福祉協議会	◎ ◎ ○ ○	○ ◎ ◎ ○	89
(29)	防災情報のユニバーサルデザイン整備	広報課 防災課	◎ ◎	◎ ○	95
(30)	災害時における社会福祉施設等の情報共有体制整備	障がい福祉課 いきいき総務課 子ども総務課	○ ○ ◎	○ ○ ◎	98

1 【重点事業】 バリアフリー基本構想の進行管理

担当課：交通事業推進課

1-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●バリアフリー基本構想の進行管理（毎年度）			
	●バリアフリー基本構想の改定を 1 地区	1 地区	●バリアフリー基本構想改定 対象地区の検討等	
	—	●全地区のバリアフリー基本構想に教育啓発 特定事業を追加		

1-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
◎：順調	◎：順調

1-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
・全地区（10 地区）のバリアフリー基本構想の特定事業計画の進捗状況について事業の実施主体に実績照会を行うとともに、各実施主体に対して計画的な事業実施の依頼を行いました。 ・まちの状況変化等を踏まえ、相原駅周辺地区バリアフリー基本構想の改定を行い、エリアや対象施設・経路・特定事業などの見直しを行うとともに、新たに教育啓発特定事業及びソフト対策事業（合理的配慮）を位置づけ、ハード・ソフト両面からバリアフリー化を推進していくことを明記しました。	・同左 ・まちの状況変化等を踏まえ、成瀬駅周辺地区バリアフリー基本構想の改定を行い、エリアや対象施設・経路・特定事業などの見直しを行うとともに、新たに教育啓発特定事業及びソフト対策事業（合理的配慮）を位置づけ、ハード・ソフト両面からバリアフリー化を推進していくことを明記しました。

1-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	◎：意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたっては、地域住民、高齢者、障がい者等にバリアフリー部会員として検討に参画いただきました。 また、まち歩き点検の際には、地域住民、高齢者、障がい者等を追加募集し、より多くの方の意見を取入れる機会を設けました。 さらに、市民意見募集を実施し、地域にお住まいの障がい者等からご意見をいただきました。	◎：意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたっては、地域住民、高齢者、障がい者等にバリアフリー部会員として検討に参画いただきました。 また、まち歩き点検の際には、地域住民、高齢者、障がい者等を追加募集し、より多くの方の意見を取入れる機会を設けました。 さらに、市民意見募集や近隣保育所への個別意見聴取を実施し、地域在住・在勤の方々からご意見をいただきました。
協働	◎：事業者や団体と協働する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定を検討するバリアフリー部会及びまち歩き点検には地域住民、高齢者、障がい者等及び事業者に参画いただき協働の場としました。また、特定事業の調整の際には、代替案の提案を原則とするなど、市民と事業者の建設的な対話（協働）が進みやすくなるような配慮を行いました。	◎：事業者や団体と協働する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 同左
庁内連携	◎：庁内各課と連携する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたり、教育啓発特定事業の調整に際しては、「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」の関連事業（12，13）の所管部署と調整を行いました。また、道路特定事業の調整に際しては、今後計画されている相原駅東口駅前広場やアクセス路等の整備事業の所管部署とも綿密な調整を行いました。	◎：庁内各課と連携する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたり、教育啓発特定事業の調整に際しては、「まちだユニバーサル社会推進計画（第3次町田市福祉のまちづくり推進計画）」の関連事業（12，13）の所管部署及び近隣小中学校と調整を行いました。また、その他の特定事業の調整に際しても各施設を所管する部署と綿密な調整を行いました。

《推進分野 1》

広報・PR	◎：広報・PR を行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたっては、広報まちだや市のホームページにて各種（諮問、市民意見募集実施、答申・策定）の情報発信を行いました。	◎：広報・PR を行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 基本構想改定にあたっては、広報まちだや市のホームページにて各種（諮問、市民意見募集実施、答申・策定）の情報発信を行いました。また、2024 年度の新たな試みとして市民意見募集を実施する際にプレスリリースを実施し、地方紙や全国紙の記事にも取り上げられるなど積極的なPRを行いました。
-------	---	---

1-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	・基本構想改定にあたっては、ソフト対策強化のため、体系の見直しを行い、新たに教育啓発特定事業やソフト対策事業の位置づけを行いました。 ・市民・事業者との協働の点では、事業調整の際に代替案の提案を原則とするなど建設的対話を促進するための工夫をしました。 ・まち歩き点検では地域住民や高齢者、障がい者等を増員して行うことで市民意見の反映に務めました。	・成瀬駅周辺地区の基本構想改定にあたっては、ソフト対策強化のため、体系の見直しを行い、新たに教育啓発特定事業やソフト対策事業の位置づけを行いました。 ・市民・事業者との協働の点では、事業調整の際に代替案の提案を原則とするなど建設的対話を促進するための工夫をしました。 ・まち歩き点検では地域住民や高齢者、障がい者等を増員して行うことで、市民意見の反映に務めました。 ・プレスリリースを行うことによる積極的なPRや保育所等への個別的な意見募集の実施など福祉のまちづくりへの関心を喚起する工夫を行いました。
問題点、課題	特定事業計画の進捗管理体制の構築及びバリアフリー基本構想改定対象地区の検討等が課題です。	特定事業計画の進捗管理体制の構築、バリアフリー基本構想改定対象地区の選定手法に関する検討等が課題となっています。
次年度以降の対応策等	・2024 年度は成瀬駅周辺地区バリアフリー基本構想の改定を行う予定です。 ・2025 年度以降は特定事業計画の進捗管理体制の構築及びバリアフリー基本構想改定対象地区の検討等に着手予定です。	2025 年度以降は、特定事業計画の進捗管理体制の構築及びバリアフリー基本構想改定対象地区の選定手法に関する検討等に着手する予定です。

2 【重点事業】福祉のまちづくり総合推進条例・適合証制度の普及啓発

担当課：福祉総務課、土地利用調整課

2-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●制度の周知、啓発			
	●「適合証」のあり方を検討		●新たな「適合証」の普及・啓発の実施	

2-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【福】△：改善が必要	【福】○：概ね順調
【土】○：概ね順調	【土】○：概ね順調

2-3 取組内容

凡例【福】：福祉総務課 【土】：土地利用調整課

2023 年度	2024 年度
【福】「町田市福祉のまちづくり総合推進条例整備基準等マニュアル」の改訂を行ったほか、条例に関する「障がい者用駐車区画」や「車椅子使用者対応トイレ」についての適正利用について関係課との検討を行いました。 【土】ウェブサイト、窓口資料において、制度（施設整備、適合証）の周知、啓発を行いました。	【福】町田市福祉のまちづくり総合推進条例に基づく「障がい者用駐車区画」や「車椅子使用者対応トイレ」についての適正利用について市ホームページで周知・啓発を行いました。 【福】東京都内の自治体や近隣自治体の適合証の交付基準や交付数について調査を行い、「適合証」の今後のあり方について、関係課と検討しました。 【土】同左

2-4 プロセス評価

凡例【福】：福祉総務課 【土】：土地利用調整課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【福】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【福】障がい者用駐車区画の適正利用について、市民からご意見があり、それを踏まえて市の各施設管理課へ利用区画の適正利用について通知文を作成しました。	【福】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【福】車椅子使用者対応トイレの適正利用について、当事者からご意見があり、それを踏まえて市の各施設管理課に車椅子使用者対応トイレの適正利用を啓発するためのピクトシールを配布しました。

《推進分野1》

協働	【福】○：事業者や団体と協働する予定はなかったが、必要を感じ実施した 【福】「町田市福祉のまちづくり総合推進条例整備基準等マニュアル」を改訂するに当たり、視覚障がい者を支援する音声誘導についての先進的な事例に取り組んでいる事業者へ掲載許可を得て、冊子内で事例紹介を行いました。 【土】－：協働はしなかった 【土】当課における担当業務ではないためです。	【福】○：事業者や団体と協働する予定はなかったが、必要を感じ意見聴取を実施した 【福】福祉のまちづくり推進協議会委員の意見を踏まえながら、バリアフリー施設の適正利用に関する内容を心のバリアフリーハンドブックに掲載しました。 【土】－：協働はしなかった 【土】同左
庁内連携	【福】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】「町田市福祉のまちづくり総合推進条例整備基準等マニュアル」の改訂に当たり、条例関係課への照会・検討を行ったほか、「車椅子使用者対応トイレ」のピクトグラム作成について会議を開催し、検討を行いました。 【土】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【土】「町田市福祉のまちづくり総合推進条例整備基準等マニュアル」の改訂を福祉総務課と連携して行いました。	【福】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】土地利用調整課と建築物の施設整備における適合証の今後のあり方について、他市比較等を行い、検討しました。 【福】適合証のあり方について検討をするため、課題を洗い出しました。 【土】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【土】「適合証」の運用について、福祉総務課と連携して協議しました。
広報・PR	【福】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【福】「町田市福祉のまちづくり総合推進条例整備基準等マニュアル」の改訂内容について、市ホームページへのPDF掲載を行いました。 【土】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【土】昨年度に引き続きウェブサイト、窓口資料において、制度（施設整備、適合証）の周知、啓発を行いました。	【福】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【福】昨年度に引き続き市ホームページ、窓口において、制度（施設整備、適合証、障がい者用駐車区画等）の周知、啓発を行いました。 【福】市の各施設管理課に駐車区画の適正利用について周知する文書を送付しました。 【土】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【土】同左

2-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【福】：福祉総務課 【土】：土地利用調整課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【福】視覚障がい者を支援する音声誘導についての先進的な事例に取り組んでいる事業者が合同で実施しているセミナーに参加し、実際に複数の視覚誘導システムを体験しました。それを踏まえ、「町田市福祉のまちづくり総合推進条例整備基準等マニュアル」ではそれらの事例紹介を行いました。 【土】適合証が取得できる見込みの施設については、適合証の請求をするように働きかけました。	【福】東京都内の自治体や近隣自治体の適合証の交付基準や交付数について調査を行いました。基準毎に適合証を交付している自治体や、交付申請の有無を問わず審査結果に応じて適合証を交付している自治体など、各自治体の「適合証」のあり方について研究し、今後の検討材料としました。 【土】同左
問題点、課題	【福】「適合証」のあり方について年度内に方向性を決めることができませんでした。 【土】適合証取得メリットがないため、民間事業者で取得しようとする者はありません。また、適合証が取得できる基準が厳しいことも普及しない要因であります。	【福】事業者にとって適合証を取得するメリットが少ないのに加え、適合証の交付基準が厳しく、適合証の取得が増加していません。市民や事業者に対して、「適合証」の普及啓発が不足しています。 【土】同左
次年度以降の対応策等	【福】担当課と引き続き「適合証」のあり方について検討を続けます。 【土】引き続き制度（施設整備、適合証）の周知、啓発を行います。	【福】「適合証」の交付基準や方法について検討を行い、新たな「適合証」を確立します。新たな「適合証」について、市のホームページで適合証を取得している事業者を紹介するなど、普及啓発の方法の検討を進め、実施していきます。 【土】同左

3 バリアフリー、ユニバーサルデザインによる市の建築物の整備

担当課：福祉総務課、土地利用調整課

3-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●多様な使用者に配慮した各新築・改修施設の整備			
	●施設整備における情報共有の仕組みを検討・構築			●情報共有の実施

3-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【福】○：概ね順調	【福】○：概ね順調

3-3 取組内容

凡例【福】：福祉総務課 【土】：土地利用調整課

2023 年度	2024 年度
【福】新規の施設整備を実施予定の課に対し、バリアフリー・ユニバーサルデザインの観点から助言や作成書類の確認等を行いました。 【福】施設整備における情報共有の仕組みの検討を進めています。	【福】新規の施設整備を検討中の課に対し、バリアフリー・ユニバーサルデザインの観点から当事者参画等に関する助言や作成書類の確認等を行いました。 【福】ピクトグラムで車椅子利用者対応トイレの用途を示すことのできるピクトシールを町田市が管理する施設に送付しました。

3-4 プロセス評価

凡例【福】：福祉総務課 【土】：土地利用調整課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【福】－：意見聴取を実施しなかった 【福】2023 年度は新築・改修を行った施設はないため、意見聴取の機会を得られませんでした。	【福】－：意見聴取を実施しなかった 【福】情報共有の仕組みを検討中であり、現段階では意見聴取を行っていません。
協働	【福】－：協働はしなかった 【福】2023 年度は新築・改修を行った施設はないため、協働の機会を得られませんでした。今後新築・改修を行う施設については、協働の機会を設けます。	【福】－：協働はしなかった 【福】情報共有の仕組みを検討中であり、現段階で協働して行う事業はありません。

《推進分野1》

庁内連携	【福】○：庁内各課と連携する予定はなかったが、必要を感じ連携を実施した 【福】新設予定の施設について、バリアフリー・ユニバーサルデザインの観点から担当課へ助言を行いました。 【土】△：庁内各課と連携する予定はなかったが、連携する機会を得た 【土】審査を行う際は望ましい整備を行うように働きかけています。	【福】○：庁内各課と連携する予定はなかったが、必要を感じ連携を実施した 【福】新設予定の施設について、バリアフリー・ユニバーサルデザインの観点から担当課へ助言を行いました。 【福】車椅子使用者対応トイレをピクトグラムで示すよう、ピクトシールを配布しました。 【土】△：庁内各課と連携する予定はなかったが、連携する機会を得た 【土】審査を行う際は望ましい整備を行うように働きかけています。
広報・PR	【福】－：広報・PRは実施しなかった 【福】2023年度は新築・改修を行った施設はないため、広報・PRの機会を得られませんでした。今後新築・改修を行う施設については、広報・PRの機会を設けます。	【福】－：広報・PRは実施しなかった 【福】情報共有の仕組みを検討中であり、現段階では広報活動を行っていません。

3-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【福】：福祉総務課

【土】：土地利用調整課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【福】町田市福祉のまちづくり総合推進条例に基づく市の施設の先導的整備について、関係各課や事業者等への周知をより広めるため、要領を整備し、同内容を整備基準等マニュアルにも記載しました。	【福】新規の施設整備を検討中の課に対し、バリアフリー・ユニバーサルデザインの観点から当事者参画等に関する助言や作成書類の確認等を行いました。 【福】都が主催する当事者参画の研修会に参加し、他課へ情報共有しました。
問題点、課題	【福】2023年度は新設や大きな改修を行った施設がなかったため、当事者点検等十分な情報収集を行うことができませんでした。	【福】各課で施設整備を行う上で当事者参画の必要性を意識づけできるよう、施設整備における情報共有の仕組みを構築する必要があります。
次年度以降の対応策等	【福】2024年度以降は新設施設等の建設予定があるため、各担当課へ当事者点検を含めた情報収集を行います。	【福】2025年度以降は施設整備における情報共有の仕組みを確立します。

4 ユニバーサルデザインによる市立学校の教育環境整備

担当課：施設課・新たな学校づくり推進課

4-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●学校施設におけるユニバーサルデザインの推進			

4-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
○：概ね順調	○：概ね順調

4-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
①エレベーターの設置工事として、2022 年度に設計を完了した中学校 4 校につき、設置工事に着手しました。 ②PFI 方式により、改正バリアフリー法等に基づく必要な整備は、建替えを行う 2 地区で PFI 事業者の公募を開始しました。 ③従来方式により、改正バリアフリー法等に基づく必要な整備は、建替えを行う 1 地区の基本・実施設計に着手しました。	①2022 年度に設計を完了した中学校 4 校につき、エレベーターの設置工事が完了しました。2023 年度に設計を完了した中学校 4 校のうち、1 校のエレベーター設置工事に着手しました。 ②建て替えを行う 2 地区で PFI 事業者の選定を行い、事業者と契約を締結し、設計に着手しました。 ③建替えを行う 1 地区の基本・実施設計に着手しました。

4-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	○：意見聴取を実施する予定はなかったが、必要を感じ意見聴取を実施した PFI 事業者の公募を行うにあたり、ユニバーサルデザインへの配慮を含めた要求水準書を公開し、質疑の機会を設けました。	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 同左
協働	○：事業者や団体と協働する予定はなかったが、必要を感じ実施した PFI 事業者の公募を行うにあたり、ユニバーサルデザインへの配慮を含めた要求水準書を公開し、質疑の機会を設けました。	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 同左

《推進分野 1》

庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ①：工事担当の営繕課と連携しながら事業を実施しました。 ②③：新たな学校づくりに関係する各課と建替えに向けた連携・調整を随時図りながら、要求水準の作成や設計を進めました。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ①：同左 ②③：新たな学校づくりに関係する各課と建替えに向けた連携・調整を随時図りながら、事業者選定や設計を進めました。
広報・PR	－：広報・PR は実施しなかった 今後の建替えについては、「まちだの新たな学校づくり通信」等で広報してまいります。	○：広報・PR を行う予定はなかったが、必要を感じ広報・PR を行った ②：「まちだの新たな学校づくり通信」で、本町田地区・南成瀬地区の保護者や地域の方に向けて、PFI 事業により整備する新たな学校のイメージの広報を実施しました。

4-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	①③：庁内各課及び学校と調整を図り、安全に配慮しながら計画どおり施工・設計しました。 ②：庁内各課と調整を図りながら、事業者公募に向けた要求水準を作成し、予定通り事業者公募を開始することができました。	①③：同左 ②：庁内各課と調整を図りながら、事業者選定を進め、予定通りに事業者との契約を締結し、設計に着手することができました。
問題点、課題	①③：児童・生徒・教職員が学校生活を送る中で進める工事や設計業務のため、学校ともこまめに調整する必要がありました。 ②：多数の課と連携し、短い期間で調整を図らなければいけないことが多かったため、全体でこまめに情報を共有することが必要でした。	①：エレベーター設置工事について、入札を行った 4 校のうち、3 校が契約不調となり、事業の実施の時期や計画の見直しの必要が生じました。 ②：多数の課と連携し、短い期間で調整を図らなければいけないことが多かったため、全体でこまめに情報を共有することが必要でした。 ③：児童・生徒・教職員が学校生活を送る中で進める工事や設計業務のため、学校ともこまめに調整する必要がありました。
次年度以降の対応策等	①③：引き続き学校との連絡調整を密にし、安全面に細心の注意を払って、施工・設計を進めます。 ②：新たに 1 校の建替えに向けた調整を始めるため、引き続き、こまめな連絡と情報共有をしていきます。	①③：引き続き学校との連絡調整を密にし、安全面に細心の注意を払って、施工・設計を進めます。 ②：設計の完了及び着工に向けて、引き続き情報共有を密にしながら取り組みを進めます。

5 歩道のバリアフリー改善整備（歩道整備・舗装補修）

担当課：道路整備課、道路維持課

5-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●歩道整備新設延長			
	0.65km	—	2.11km	—
	●歩道舗装補修工事			

5-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【整】◎：順調	【整】◎：順調
【維】○：概ね順調	【維】○：概ね順調

5-3 取組内容 凡例【整】：道路整備課 【維】：道路維持課

2023 年度	2024 年度
【整】 早期に工事を発注したことや発注後の進捗管理を徹底したことで、予定通り工事を完了しました。	【整】 同左
【維】 19 件の歩道舗装補修工事を行い、安全で安心して歩ける快適な歩行空間を形成しました。	【維】 同左

5-4 プロセス評価 凡例【整】：道路整備課 【維】：道路維持課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【整】－：意見聴取を実施しなかった 【整】 過年度に説明会にて意見聴取を実施済みです。 【維】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【維】 要望者から要望内容の聞き取りを行い、作業を実施しました。	【整】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【整】 同左 【維】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【維】 同左
協働	【整】－：協働はしなかった 【整】 過年度に説明会にて意見聴取を実施済みです。	【整】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【整】 同左

《推進分野1》

庁内連携	【整】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【整】駅舎改良事業担当部署や小田急電鉄と調整を図り、事業を予定通り進捗させました。 【維】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【維】要望受けを担当している道路管理課と、要望の引継ぎについて定期的な打合せを行っています。	【整】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【整】同左 【維】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【維】同左
広報・PR	【整】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【整】新設駅前交通広場への切り替えについて、広報及びホームページで周知しました。 【維】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【維】道路が傷んでいる時のお問い合わせ先に関するページがあります。	【整】○：広報・PRを行う予定はなかったが、必要を感じ広報・PRを行った 【整】駅前交通広場内の歩行者導線の切り替えについて、広場内に複数の案内看板を設置し周知しました。 【維】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【維】同左

5-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【整】：道路整備課

【維】：道路維持課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【整】鶴川駅前交通広場整備について、工事の進捗に伴い、歩道の切り回しを数回に渡り行ったため、通行車両及び歩行者が混乱しないよう、警視庁と密に協議を図り、現場に複数の案内版を設置したことや交通保安要員増員し安全に務めました。 【維】ライフライン関係の工事はかなりの頻度で有り、舗装したばかりの所が掘削されることの無いよう、他部署・他企業との調整を行いました。	【整】鶴川駅前交通広場整備について、引き続き工事の進捗に伴い、歩道の切り回しを数回に渡り行ったため、通行車両及び歩行者が混乱しないよう、警視庁と密に協議を図り、現場に複数の案内版を設置したことや交通保安要員増員し安全に務めました。 【維】同左

《推進分野1》

問題点、課題	【整】今後も、駅舎改修工事や南北自由通路の工事と併行して工事を進めるため、関連部署や関係機関と密に調整を図り、事業を進める必要があります。	【整】同左
次年度以降の 対応策等	【整】工事発注を早期に行い、進捗管理の徹底を図ることや、他事業の進捗にも目を向けつつ、密に調整を図っていきます。 【維】引き続き他部署・他企業との調整を行い、効率的な対応を行います。	【整】同左 【維】同左

6 放置自転車対策

担当課：道路管理課

6-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●放置自転車等の対策実施			

6-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
○：概ね順調	○：概ね順調

6-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
・ 駅周辺に放置禁止区域を設置し、放置自転車に対する警告・撤去を行いました。 ・ 駐輪場シェアサービス「みんちゅう SHARE-LIN」により、空いている土地・スペースを駐輪場として活用することで、放置自転車等の減少に取り組みました。 ・ 町田駅周辺の駐輪場マップを作成し、各駅の自転車等駐車場や公共施設等で配布しました。 ・ 南町田グランベリーパーク駅東自転車駐車場を 2023 年 4 月に開設しました。	・ 同左 ・ 同左 ・ 同左 ・ 2024 年 4 月に多摩境駅北口自転車駐車場の定期利用台数を約 80 台増設しました。

6-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 放置自転車について、市民の方からいただいたご意見について丁寧に聴取しました。	△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 同左
協働	－：協働はしなかった 市民や団体との協議の必要がない事業のため。	－：協働はしなかった 同左

《推進分野 1》

庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 放置自転車防止ポスターの募集に当たっては、指導課を通じて 児童・生徒へ宣伝を行ったほか、児童青少年課発行の冊子「夏 休み子どもフェア」で周知しました。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 同左
広報・PR	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた ・小中学生対象に 7 月～9 月に放置自転車防止啓発ポスター を募集し、応募作品を駅前に掲出しました。 ・募集にあたって、ホームページに募集のお知らせを掲載しま した。 ・町田駅周辺の駐輪場マップについて、ホームページに掲載し ました。	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた ・小中学生対象に放置自転車防止啓発ポスターを募集し、応募 作品を駅前に掲出しました。 ・同左 ・同左 ・駅前放置自転車クリーンキャンペーンについて、広報・ホー ムページに掲載したほか、交通事業者や商業施設にポスター の掲出を依頼しました。

6-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫 したこと、成果	・小中学生に放置自転車防止啓発ポスターを募集することで、小中学生にも放 置自転車防止の啓発することができました。 ・募集したポスターを町田市内各駅近くに掲出することで、自転車を放置しに くい環境を作っています。	・同左
問題点、課題	自転車を放置した人に対し、「みんちゅう SHARE-LIN」サービスや、町田駅 周辺の駐輪場マップを周知する方法が少ないです。	同左
次年度以降の 対応策等	引き続き、啓発ポスターの募集を行い、自転車を放置しにくい状況を作るとと もに、駐輪場マップや、みんちゅう SHARELIN の啓発を行っていきます。	同左

7 バリアフリー、ユニバーサルデザインによる公園の整備

担当課：公園緑地課

7-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●公園のバリアフリー、ユニバーサルデザイン整備			
	●遊具広場整備（野津田公園）			
	基本設計	実施設計	工事（1/3）	工事（2/3）

7-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
○：概ね順調	△：改善が必要

7-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
・公園のバリアフリー、ユニバーサルデザイン整備は町田市福祉のまちづくり総合推進条例で定める整備基準等に基づき、公園整備を行いました。また、忠生スポーツ公園にはインクルーシブ遊具を導入しました。 ・遊具広場を含む野津田公園次期整備区域について、2022 年度に実施したアンケートを取りまとめ、公表しました。	・公園のバリアフリー、ユニバーサルデザイン整備は町田市福祉のまちづくり総合推進条例で定める整備基準等に基づき、公園整備を行いました。 ・遊具広場（野津田公園）の設計の考え方について、他市事例をもとにインクルーシブな広場における整備方針（内規）を取りまとめました。

7-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 野津田公園次期整備区域（遊具広場を含む）について、アンケートを実施しました。 対象者：どなたでも（設問については、障がい者の方向けのものを含む） 方法：web アンケート＋野津田公園に紙アンケートを設置 期間：2022 年 11 月～2023 年 3 月 人数：163 名	－：意見聴取を実施しなかった ・公園のバリアフリー、ユニバーサルデザイン整備は基準に基づき整備を行ったため。 ・野津田公園は遊具広場の整備に向けて、改めて障がい者等の市民の意見を聞く場を設ける予定があります。

《推進分野1》

協働	－：協働はしなかった 遊具整備（野津田公園）においては、今後協働を検討していきます。	－：協働はしなかった ・公園のバリアフリー、ユニバーサルデザイン整備は基準に基づき整備を行ったため。 ・野津田公園は遊具広場の整備に向けて、改めて障がい者等の市民の意見を聞く場を設ける予定があります。
庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた適宜、関係課（障がい福祉課など）情報提供などを行いました。	－：庁内連携は実施しなかった ・公園のバリアフリー、ユニバーサルデザイン整備は基準に基づき整備を行ったため。 ・野津田公園は遊具広場の整備に向けて、改めて関係部署の意見を聞く場を設ける予定があります。
広報・PR	○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた市ホームページで周知しました。	○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 同左

7-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	特になし	特になし
問題点、課題	遊具広場（野津田公園）については、基本設計の段階で関係団体と調整しながら、必要に応じてワークショップなどを組み込んだ設計を進めることで、インクルーシブの要素を取り入れた設計をしていく必要があります。	野津田公園の遊具広場については、インクルーシブの要素を取り入れた基本設計とするため、関係団体との調整や、必要に応じてワークショップなどを行う必要があります。
次年度以降の対応策等	特になし	特になし

8 公共トイレ計画の推進

担当課：環境共生課

8-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●公共トイレ協力店等の周知			

8-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
◎：順調	○：概ね順調

8-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
「町田市公共トイレマップ」、「町田駅周辺駅周辺駐輪場マップ」、「まちだめぐりサイクリングコース」を掲載した「町田シティマップナビタ」の作成、配布や、町田市ホームページでの情報掲示を行いました。	「町田市公共トイレマップ」、「町田駅周辺駅周辺駐輪場マップ」、「町田シティマップナビタ」の作成、配布や、町田市ホームページでの情報掲示を行いました。

8-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 市のホームページへの情報掲示のほか、公共トイレマップを多くの場所で配布することで周知し、ご意見があった際には丁寧に聴取できるようにしています。	△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 市民から問い合わせがあったため、意見聴取の機会を得ました。
協働	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 民間の店舗事業者の協力により、多くのトイレを市民に開放していただきました。	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 同左

《推進分野 1》

庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ・「町田市シティマップナビタ」を道路管理課と連携して作成、配布しました。 ・また、配布にあたっては、市の施設所管課の協力を受けています。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ・同左 ・同左
広報・PR	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた 町田市ホームページでの情報揭示のほか、「町田市シティマップナビタ」を多くの場所で配布しました。	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた 同左

8-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	・「町田市シティマップナビタ」は広告事業者と協働し、無償で作成しました。 ・「公共トイレマップ」について、より分かりやすい情報提供となるよう、協力店一覧を追加しました。	・「町田市シティマップナビタ」は広告事業者と協働し、無償で作成しました。より多くの方に公共トイレ協力店を知っていただくよう、公園の情報コーナーなどにも「町田市シティマップナビタ」を設置しました。 ・同左
問題点、課題	より多くの方に、公共トイレ協力店等を知っていただくよう、情報提供の方法を検討する必要があります。	同左
次年度以降の対応策等	「町田市シティマップナビタ」配布方法を検討します。	引き続き、「町田市シティマップナビタ」配布方法を検討します。

9 住宅バリアフリー化改修工事の助成・住宅改修アドバイザーの派遣

担当課：住宅課、介護保険課、障がい福祉課

9-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●住宅バリアフリー化改修工事助成の実施			
	●住宅改修アドバイザー派遣の実施			

9-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【住】◎：順調	【住】○：概ね順調
【介】◎：順調	【介】◎：順調
【障】◎：順調	【障】◎：順調

9-3 取組内容

凡例【住】：住宅課 【介】：介護保険課 【障】：障がい福祉課

2023 年度	2024 年度
【住】2023 年 5 月 15 日から助成を開始し、21 件の申請に対し助成を行いました。 【介】介護保険の住宅改修や設備改修を行う方からの依頼に基づき、住宅改修の施工に関する助言及び指導を行うアドバイザーを無料で派遣しました（2023 年 2 月現在 142 件）。 【介】ホームページ、ケアマネジャー向けの研修等で、制度の周知を行いました。 【介】アドバイザー間の知識の平準化を図るため、住宅改修アドバイザー会議を 2 回開催しました。 【障】他課や障がい者支援センターと連携を取りながら、市民への周知を行いました。また、相談対応の質の向上を目的に住宅改修アドバイザー（建築士）による障がい者支援センターの職員への研修を行いました。	【住】2024 年 6 月 10 日から助成を開始し、21 件の申請に対し助成を行いました。 【介】介護保険の住宅改修や設備改修を行う方からの依頼に基づき、住宅改修の施工に関する助言及び指導を行うアドバイザーを無料で派遣しました（2024 年 2 月現在 140 件）。 【介】アドバイザー間の知識の平準化を図るため、住宅改修アドバイザー会議を 2 回開催しました。 【障】他課や障がい者支援センターと連携を取りながら、市民への周知を行いました。また、相談対応の質の向上を目的に市担当者による障がい者支援センターの職員への研修を行いました。

9-4 プロセス評価 凡例【住】：住宅課 【介】：介護保険課 【障】：障がい福祉課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【住】－：意見聴取を実施しなかった 【住】介護保険や障がい者支援給付制度を使えない者を対象とした助成制度であり、助成内容もバリアフリー化工事全般を網羅的に対象としているため。 【介】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【介】アドバイザーが訪問した際、その場で制度利用者（市民）に意見を伺いました。また、利用者とともにアドバイザーから助言を受けているケアマネジャーに対してアンケート調査を行いました。 【障】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】介護保険課が行っている住宅改修アドバイザー会議や研修会に参加しており、アドバイザーの先生方から利用者の方のニーズや対応事例について意見聴取を行いました。また、利用者と関係が密接な障がい者支援センターの職員から聞き取りを行いました。	【住】－：意見聴取を実施しなかった 【住】同左 【介】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【介】アドバイザーが訪問した際、その場で制度利用者（市民）に意見を伺いました。 【障】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】事業を実施しながら住宅改修アドバイザーの先生方から利用者の方のニーズや対応事例について意見聴取を行いました。また、利用者と関係が密接な障がい者支援センターの職員から聞き取りを行いました。
協働	【住】－：協働はしなかった 【住】助成制度のため、協働すべき主体が存在しない。 【介】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【介】高齢者支援センター、市内のケアマネジャー等と協働し、利用者（市民）への制度の説明、利用拡大を図りました。また、住宅改修アドバイザー会議を開催し、アドバイザー間の知識の平準化を図りました。	【住】－：協働はしなかった 【住】同左 【介】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【介】同左

《推進分野1》

	【障】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】障がい者支援センターと協働し、利用者（市民）への制度の説明、利用拡大を図りました。	【障】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】同左
庁内連携	【住】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【住】助成にあたって、介護保険課、障がい福祉課に照会の上適格を確認し、他課の制度が使える場合は、そちらを案内しています（介護保険や障がい者支援給付制度のほうが、申請者の自己負担が少ない）。 【介】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【介】障がい福祉課においても障害のある方を対象に本事業を行っているため、住宅改修アドバイザー会議や住宅改修研修会を両課で連携し、実施しています。 【障】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】介護保険課においても高齢者を対象に本事業を行っているため、住宅改修アドバイザー会議や住宅改修研修会を両課で連携し、実施しています。	【住】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【住】同左 【介】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【介】同左 【障】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】同左
広報・PR	【住】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【住】助成開始について広報およびホームページで十分に周知しました。 【介】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【介】ホームページや刊行物で市民に対して周知を図っています。また、ケアマネジャーに向けて、研修会や手引き等で本	【住】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【住】同左 【介】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【介】ホームページで市民に対して周知を行いました。また、ケアマネジャーに向けて、手引き等で本制度の周知を行いま

《推進分野1》

	制度の周知を図っています。 【障】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【障】ホームページや刊行物で市民に対して周知を図っています。	した。 【障】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【障】同左
--	--	---

9-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【住】：住宅課 【介】：介護保険課 【障】：障がい福祉課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【住】申請は先着順とし、窓口混雑による混乱がないよう、円滑な受付に努めました。(助成実績 21 件) 【介】住宅改修アドバイザー会議を開催し、アドバイザー間の知識の平準化を図りました。住宅改修アドバイザーは年齢層が広く、職種も建築士、理学療法士、作業療法士と様々なため、情報共有の場を設けることでアドバイスの質を担保するとともに、新任のアドバイザーとベテランのアドバイザーの関係を構築することができました。 【介】ケアマネジャーに向けた研修の中で、制度の周知や、利用を推奨する事例の紹介などを行いました。研修後のアンケートでは、制度を知ることができたという意見や、今後積極的に利用したいという意見が得られました。 【障】障がい者支援センターと協働し、市民への周知を行っています。障がい特性に合わせた適切な利用が出来るよう心掛けています	【住】同左（助成実績 21 件） 【介】住宅改修アドバイザー会議を開催し、アドバイザー間の知識の平準化を図りました。住宅改修アドバイザーは年齢層が広く、職種も建築士、理学療法士、作業療法士と様々なため、情報共有の場を設けることでアドバイスの質を担保するとともに、新任のアドバイザーとベテランのアドバイザーの関係を構築することができました。 【障】同左

《推進分野1》

問題点、課題	【住】予算規模が小さいため、助成開始日当日の午前中で予算の上限に達しました。そのため、申請できなかった方から苦情を受けました。 【住】一方で、住宅政策全体としては、温暖化対策を背景にした省エネ改修など、より喫緊の課題と本事業の競合が生じつつあります。 【介】住宅改修アドバイザーのうち、建築士の年齢層が高く、人員が少ないです。 【介】ケアマネジャー向け研修後のアンケート結果として、制度を知っている人は74%、そのうち知っているが利用したことがない人は37%だった。制度理解・利用促進のために、まだまだ周知が必要だと考えます。 【障】障がい者福祉という事業の特性上、マニュアル化しにくく個別での対応を必要とします。	【住】予算規模が小さいため、8月中旬に予算の上限に達しました。そのため、申請できなかった方から苦情を受けました。 【住】助成事業の開始から20年以上が経過したことや、介護保険課、障がい福祉課に類似の制度がある中で、市の財政状況に鑑み、制度存続の必要性が減少しています。 【介】同左 【介】現時点で建築士のアドバイザーと日程の調整がつかない等の問題は生じていませんが、高齢者数の増加によって制度の利用者が増えているため、影響が生じる場合には対応していく必要があります。 【障】障がい者福祉という事業の特性上、マニュアル化しにくく個別での対応を必要とします。
次年度以降の対応策等	【介】住宅改修アドバイザーの人材確保を図ります。 【介】ホームページ等を通して制度のさらなる周知を行います。 【障】様々な相談に対して柔軟に対応できるよう対応事例の情報集積を行い、障がい者支援センターに共有します。	【介】住宅改修アドバイザーの人材確保を図ります。 【障】様々な相談に対して柔軟に対応できるよう今後も対応事例の情報集積を継続して行い、介護保険課や障がい者支援センターに共有します。

10 交通環境・地域で支える交通（移動支援）の整備

担当課：交通事業推進課、高齢者支援課

10-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●鉄道事業者に対する補助（毎年度）による鉄道駅ホームドアの整備			
	●多様な主体が連携した交通の取組や新たな交通の実用化・実証実験			
	新規 2 地区	新規 1 地区	新規 1 地区	新規 1 地区
	●地域の相談に対応し地域で取り組む移動サービスの支援			

10-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【交】○：概ね順調	【交】○：概ね順調
【高】◎：順調	【高】◎：順調

10-3 取組内容

凡例【交】：交通事業推進課 【高】：高齢者支援課

2023 年度	2024 年度
【交】小田急町田駅ではホームドアの整備工事が行われ、2024 年 3 月 2 日に全線において供用が開始されました。この整備に対し、町田市は東京都とともに小田急電鉄に対し補助金の交付を行いました。 【交】2023 年 6 月 2 日に玉川学園地区において地域による支え合い交通「さくら号」の実証実験が開始されました。この取組に対し、町田市は技術的・財政的支援を行いました。 【高】外出に困っている地域や送迎が必要な団体でドライバーとして活躍できる方を養成するため、「地域支え合い型ドライバー養成研修」を 1 回開催し、研修終了後は、住民団体等が実施する移動支援のドライバー活動につなげました。 【高】また、高齢者支援センターと連携して活動団体へ情報提供や助言を行うなど、活動を継続するための支援を行いました。	【交】小田急鶴川駅にて駅改良工事の一環としてホームドアの整備を行う予定です。2028 年度の工事完了に向けて鉄道事業者が整備時期を検討しており、地区街づくり課と業務分担を決定し、情報共有を進めました。 【交】2024 年 4 月 1 日に鶴川地区において地域による支え合い交通「フリーモビリティ」の運行が開始しました。この取組に対し、町田市は技術的・財政的支援を行いました。 【高】外出に困っている地域や送迎が必要な団体でドライバーとして活躍できる方を養成するため、「地域支え合い型ドライバー養成研修」を 1 回開催し、地域で活動している団体を紹介することにより、住民団体等が実施する移動支援のドライバー活動につながるよう働きかけを行いました。 【高】現在活動している団体に対し、高齢者支援センターと連携して活動への助言や他団体の情報提供を行うなど、活動継続のための支援を行いました。

10-4 プロセス評価 凡例【交】：交通事業推進課 【高】：高齢者支援課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【交】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【交】「多様な主体が連携した交通の取組や新たな交通の実用化・実証実験」については、地域主体の取組のため、市で障がい者等を含めた住民の意見聴取の場は特に設けませんでした。 【高】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【高】2022 年度に市内在住の高齢者（要介護者を除く）約 8,000 人を対象に、郵送によるアンケート調査「健康と暮らしの調査」を実施し、「地域にあったらいいと思う支援」について聴取したところ、約 20%の方が、「車での移送」と回答しています。	【交】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【交】同左 【高】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【高】同左
協働	【交】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【交】「さくら号」の実証実験については、運行が開始される前から運行主体となる団体が参加する会議に参加し必要に応じ助言などの支援を行い、また運行を開始するに当たっては準備や運行に係る経費についての支援を行いました。 【高】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【高】「地域支え合い型ドライバー養成研修」は、全国で住民主体の移動支援を推進するためのサポートを行う NPO 法人に運営を委託して実施しました。また、既に移動支援の活動をしている住民団体や福祉事業所に事例発表やグループワークへ参加していただきました。	【交】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【交】運行が開始される前から「フリーモビリティ」の実施団体に対して、道路運送法等に関する技術的助言など支援を行い、また運行を開始するに当たっては運行に係る経費についての支援を行いました。 【高】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【高】同左

《推進分野1》

庁内連携	【交】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【交】「さくら号」の取組は地区街づくり課所管の「街づくりアドバイザーの派遣制度」を活用しており、地区街づくり課と連携し、派遣されたアドバイザーの意見も踏まえつつ主催団体と協働して事業を実施しました。 【高】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【高】支え合い型移動支援の取組への技術的支援や補助金の支給などを行っている交通事業推進課に、「地域支え合い型ドライバー養成研修」の講師を依頼したほか、不定期でお互いの取組の状況を共有する場を設けながら連携して取り組みました。	【交】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【交】フリーモビリティ実施団体には、支え合い交通実施団体と関係課で日頃の取組について意見交換を行う支え合い交通連絡会に参加していただき、事業の工夫等他地区の支え合い交通実施団体に情報提供していただきました。 【高】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【高】同左
広報・PR	【交】△：広報・PRを行う予定はなかったが、広報・PRの機会を得た 【交】小田急町田駅のホームドアの整備に関しては事業者のホームページ等での周知、「さくら号」の取組については地元団体が発行する広報紙などを通じて関係者や利用者への周知を行いました。 【高】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【高】市ホームページ及び広報まちだで「地域支え合い型ドライバー養成研修」の案内を行いました。また、町田市いきいき長寿プランに、「移動支援の推進」の取り組みを位置付け、地域で行う移動支援の取組を写真入りで紹介しました。	【交】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【交】「フリーモビリティ」の取組については、実施団体が発行するチラシなどを通じて関係者や利用者への周知が行われました。 【高】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【高】市ホームページ及び広報まちだで「地域支え合い型ドライバー養成研修」の案内を行いました。また、町田市いきいき長寿プランに、「移動支援の推進」の取り組みを掲載し、地域で行う移動支援の取組を写真入りで紹介しました。

10-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【交】：交通事業推進課 【高】：高齢者支援課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【交】地域の支え合い交通への支援にあたっては、各団体が補助金を活用する際にマニュアルを交えながら説明をし、相手方に分かりやすく伝えることを心掛けました。また、支え合い交通は地域が主体となって行う事業のため、地域の意見を尊重しながら行えるよう助言の際は留意しました。 【高】事業所や団体、庁内関係課と連携して「地域支え合い型ドライバー養成研修」を実施したほか、高齢者支援センターと連携して活動団体へ情報提供や助言を行ったことにより、地域で移動支援を行う団体が<u>2団体増加</u>しました。	【交】同左 【高】事業所や団体、庁内関係課と連携して「地域支え合い型ドライバー養成研修」を実施したほか、高齢者支援センターと連携して活動団体へ情報提供や助言を行ったことにより、地域で移動支援を行う団体が<u>1団体増加</u>しました。
問題点、課題	【交】地域の支え合い交通の取組を継続する中で、例えば既存の活動範囲以外への輸送など取組の幅を広げたりする際に、現行の法令や他の交通事業者とのバランスを考えながら慎重に検討を行う必要があります。また、新たな地域で取組を始める際に運転手や車両を用意できる協力事業者を見つけることが難しい場合の対応が課題です。 【高】移動支援を行う団体は増えてきているものの、既存団体からは、活動者の高齢化により活動継続が困難になっていることや、新たなメンバー（特に若い方）が増えないことへの懸念の声が多く寄せられています。	【交】同左 【高】同左
次年度以降の対応策等	【交】地域の支え合い交通については補助金に関するマニュアルしかなかったため、取組の始め方などがわかりやすく理解できるような手引きを作成して公開する予定です。また補助金要綱については、各団体からの声や関係する法令の改正等を反映して拡充を行うなど、適宜見直しを図ります。	【交】地域の支え合い交通について、新規導入を目指す団体に対して、道路運送法等に関する法的助言を実施し、他の公共交通と競合することが無いよう地域の交通事業者との調整を図り、運行の会誌を支援してまいります。

《推進分野1》

	【高】今後も地域住民が主体となった移動支援や生活支援の活動が増えていくよう、高齢者支援センターや社会福祉協議会と連携して団体の立ち上げや活動継続の支援を行います。 【高】また、既存団体から寄せられる声に対応するため、市と社会福祉協議会で協力して担い手となる方を増やすための広報活動について検討していきます。	【高】今後も地域住民が主体となった移動支援や生活支援の活動が増えていくよう、高齢者支援センターや全域生活支援コーディネート事業委託事業者と連携して団体の立ち上げや活動継続の支援を行います。 【高】また、既存団体から寄せられる声に対応するため、担い手となる方を増やすための効果的な広報活動について検討していきます。
--	---	--

1 1 共同配車センターの運営

担当課：福祉総務課、社会福祉協議会

11-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●福祉輸送サービスの周知及び支援			

11-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【福】○：概ね順調	【福】○：概ね順調
【協】○：概ね順調	【協】○：概ね順調

11-3 取組内容

凡例【福】：福祉総務課 【協】：社会福祉協議会

2023 年度	2024 年度
【福】福祉輸送サービス共同配車センターの運営内容や課題について、運営主体である町田市社会福祉協議会や運行事業者との担当者会議を定期的に行い、検討を行いました。 【協】「高齢者のための暮らしのてびき」、「障がい者サービスガイドブック」、「みんなのおでかけマップ（町田市バリアフリーマップ）」の他、社会福祉協議会（以下、社協）のホームページ等において福祉輸送サービスの周知を行いました。また、町田市、委託業者、社協による定例会議を行い、2022 年度に実施したアンケートと登録会員の現況把握をもとにニーズや課題、安定したサービス提供を検討し事業者及び利用者支援を行いました。	【福】同左 【福】年度当初の運転手ボランティア確保に向けて、広報まちだ 1 月 1 日号で運転手募集の記事を掲載しました。 【協】「高齢者のための暮らしのてびき」、「障がい者サービスガイドブック」、「みんなのおでかけマップ（町田市バリアフリーマップ）」、及び社会福祉協議会のホームページで事業の周知を行いました。また、2024 年度は登録会員に向けて事業利用に関するアンケートを実施し、その結果を町田市・委託業者・社会福祉協議会による定例会議にて共有しました。これにより、ニーズや課題の把握、安定したサービス提供の検討を行い、事業者及び利用者支援を実施しました。

11-4 プロセス評価 凡例【福】：福祉総務課 【協】：社会福祉協議会

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【福】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【福】利用者からのご意見等問い合わせについて、運行事業者に現状把握を行いながら改善策について一緒に検討を行いました。 【協】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】2022 年度に利用者へのアンケートを実施しており、今年度は 2022 年度に実施したアンケート(利用者 489 名、回収 227 名、回収率 46.6%)をもとにニーズや課題、安定したサービス提供を検討しました。また、利用者からのご意見等については定例会議などで検討し適切な対応を行うようにしています。今後は 2024 年度、2026 年度にアンケート実施を予定しています。	【福】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】事業実施主体である町田市社会福祉協議会が利用者アンケートを行い、利用者の意見を伺いました。 【協】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】2024 年度には、登録会員を対象に匿名での郵送調査で事業利用に関するアンケートを実施しました(対象者数 401 名、回収 183 名、回収率 45.6%)。アンケート結果は町田市・委託業者・社会福祉協議会の定例会議で共有し、ニーズや課題の把握、安定したサービス提供の検討を行い、事業者及び利用者支援を実施しました。
協働	【福】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】定期的に担当者会議を開催し、運営内容や課題について検討を行いました。 【協】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】共同配車センターの運営については市民、NPO 法人町田ハンディキャブ友の会、小田急交通南多摩株式会社、町田市及び社会福祉協議会が連携し取り組んでいます。また、より適切な運営のために定例会議を開催し、情報共有や運営の円滑化に向けての検討を行っています。	【福】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】同左 【協】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】同左

《推進分野1》

庁内連携	【福】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】関係課である障がい福祉課へ共同配車センターの月次報告書を毎月送付し、情報共有を行っています。	【福】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】同左
広報・PR	【福】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【福】市ホームページや案内チラシを使用して、事業の周知を行っています。 【協】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【協】「高齢者のための暮らしのてびき」、「障がい者サービスガイドブック」、「みんなのおでかけマップ（町田市バリアフリーマップ）」の他、社協のホームページ等において福祉輸送サービスの周知を行いました。また、ホームページにおいては社協の発行する町田市地域福祉活動計画や事業報告書などを掲載しており、実績・事業概要・今後5年間の目標及び目標値等を閲覧することができます。	【福】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【福】同左 【福】年度当初の運転手ボランティア確保に向けて、広報まちだ1月1日号で運転手募集の記事を掲載しました。 【協】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【協】「高齢者のための暮らしのてびき」、「障がい者サービスガイドブック」、「みんなのおでかけマップ（町田市バリアフリーマップ）」、および社会福祉協議会のホームページで事業の周知を行いました。ホームページでは、社会福祉協議会の発行する町田市地域福祉活動計画や事業報告書などを掲載しており、実績・事業概要・今後の目標や目標値等を閲覧することができます。

11-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【福】：福祉総務課

【協】：社会福祉協議会

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【福】福祉輸送サービス共同配車センターでは、2023 年度も 2 月現在で 3,193 回の運行を行っています(2022 年度は 3,657 回)。また、町田市社会福祉協議会及び運行事業者と行っている担当者会議では、運営上の課題や現状を踏まえ、利用案内の更新や課題の洗い出しを行いました。 【協】共同配車センターの運営については市民、NPO 法人町田ハンディキャブ友の会、小田急交通南多摩株式会社、町田市及び社協が連携し、相互の協力により取り組んでおり、2023 年度も 2 月現在で 3,193 回の運行を行っています(2022 年度は 3,657 回)。また、運営に関しては運転員との会議を毎月 1 回、町田市・委託業者・社協による定例会議を 2023 年度は 2 回実施し、情報の交換や共有、運営についての検討を行いました。	【福】福祉輸送サービス共同配車センターでは、2024 年度 2 月現在で 3,107 回の運行を行っています(2023 年度は 3,495 回)。 【福】町田市社会福祉協議会及び運行事業者と行っている担当者会議では、運営上の課題や現状を踏まえ、利用案内の更新や課題の洗い出しを行う等の事業支援を行いました。 【福】年度当初の運転手ボランティア確保に向けて、広報まちだ 1 月 1 日号で運転手募集の記事を掲載しました。 【協】共同配車センターの運営は、市民、NPO 法人町田ハンディキャブ友の会、小田急交通南多摩株式会社、町田市及び社会福祉協議会が連携し、相互協力のもとで取り組んでおり、2024 年度は 2 月現在で 3,107 回の運行を行っています(2023 年度は 3,193 回)。また、運営に関しては、毎月 1 回の運転員会議と、町田市・委託業者・社会福祉協議会による定例会議を 2024 年度は 3 回実施し、情報交換や運営の検討を行いました。
問題点、課題	【福】福祉輸送サービス事業を行っている拠点の施設が 2026 年度に閉館するため、新たな拠点について調査し、移転に向けて検討を進める必要があります。 【協】運転員の確保と高齢化社会などへの対応が課題として考えられます。現在、運転員は約 20 名おり、平均年齢は約 70 歳代となっており、今後は運転員の確保が課題となることが予想されます。また、高齢化が進むことにより利用対象者の増加が見込まれる他、重い疾病のある方や身体不自由の方、施設入所者が増えていくことも予想されま	【福】福祉輸送サービス事業を行っている拠点の施設が 2026 年度に閉館するため、新たな拠点について調査するほか、持続可能な福祉輸送サービスの提供方法について検討する必要があります。 【協】高齢化による運転員の確保が主な課題です。現在、運転員は約 20 名おりますが、平均年齢は約 70 歳であり、今後の運転員確保が重要となります。また、高齢化社会の進展に伴い、利用者の増加や重い疾病、身体不自由の方、施設入所者の増加が予想されます。これに対応するため、

《推進分野1》

	す。今後はその対応に備えて運転員の増加や様々な方への対応方法を検討していく必要があります。	運転員の増員や多様なニーズへの対応を検討する必要があります。
次年度以降の 対応策等	【福】福祉輸送サービス事業の新たな拠点について検討していくとともに、運営主体である町田市社会福祉協議会が認識している課題について連携しながら調整していきます。 【協】 ・運転員の募集や確保 ・様々な利用者対応についての検討 ・市内で行われているドライバー養成研修の場においてや福祉輸送サービスに関心のある方に対して共同配車センター事業への協力を促します。その際には安全運転や福祉輸送について十分な説明を行い、理解をしていただき協力を得られるように取り組む必要があります。また、高齢化に伴い、様々な利用者への対応についての検討や情報共有を定例会や運転員との会議において行い、安定したサービス提供に努めます。	【福】福祉輸送サービス事業の新たな拠点について検討していくとともに、福祉輸送サービス共同配車センターの今後の運用について連携しながら調整していきます。 【協】《運転員の募集や確保》市内で行われるドライバー養成研修や福祉輸送サービスに関心のある方に対し、共同配車センター事業への協力を促します。その際、安全運転や福祉輸送について十分な説明を行い、理解と協力を得るよう努めます。 【協】《様々な利用者対応についての検討》高齢化に伴い、利用者の増加や多様なニーズに対応するため、定例会や運転員との会議で情報共有と対応策の検討を行い、安定したサービス提供に努めます。

12 【重点事業】心のバリアフリー、ユニバーサルデザインの普及啓発

担当課：福祉総務課

12-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●教育啓発特定事業計画の 検討・策定		●策定した計画の実施	
	●心のバリアフリーの認知度（50%以上）			
	35%以上	40%以上	45%以上	50%以上
	●「心のバリアフリーハンドブ ック」全面改訂		—	—

12-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
◎：順調	◎：順調

12-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
・相原駅周辺地区における心のバリアフリーをより一層推進していくため、相原駅周辺地区バリアフリー基本構想に「教育啓発特定事業計画」を位置付けました。 ・「心のバリアフリーハンドブック」改定に当たって、障がい当事者へのヒアリングを実施し、骨子案に反映しました。 ・町田市ちょっとアンケートを実施し、心のバリアフリーという用語を理解している人の割合は 36.7%でした。	・成瀬駅周辺地区における心のバリアフリーをより一層推進していくため、成瀬駅周辺地区バリアフリー基本構想に「教育啓発特定事業計画」を位置付けました。 ・1月に実施した町田市庁舎バリアフリーツアー（参加者数：14名）やX（旧 Twitter）での啓発（投稿数：36件、総閲覧数：48,116件）等の心のバリアフリーに係る普及啓発を行った結果、町田市ちょっとアンケートにおいて心のバリアフリーという言葉を知ったことがあり、意味も理解している」と回答した人の割合は 45.7%でした。 ・障がい当事者や子どもへのヒアリングを実施・反映し、「心のバリアフリーハンドブック」を改定しました。

12-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	◎：意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 心のバリアフリーハンドブックの改定に当たり、障がい当事者へのヒアリングを実施し、多くの方のご意見をお伺いしました。(意見を聞いた団体等数：9団体)。	◎：意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った ・町田市内事業者へアンケートを行い、10 事業者からご意見をいただきました。 ・市民意見募集を実施し、21 名の方から 24 件のご意見をいただきました。 ・町田市立小学校や子どもセンターで 278 名の子どもたちにヒアリングを実施し、いただいたご意見を反映しました。
協働	○：事業者や団体と協働する予定はなかったが、必要を感じ実施した 町田市社会福祉協議会が実施する「福祉教育」に参加しているボランティア団体へ「心のバリアフリーハンドブック」について周知と協力を依頼しました。	◎：事業者や団体と協働する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った F C町田ゼルビアと町田ハンディキャプ友の会と協力して、小学生とその保護者向けに町田市庁舎バリアフリースターを実施しました。14 名の方にご参加いただきました。
庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ・バリアフリー基本構想の担当課である交通事業推進課と連携して、相原駅周辺地区バリアフリー基本構想における「教育啓発特定事業計画」に掲載する内容を検討しました。 ・「心のバリアフリーハンドブック」では、障がい福祉課と掲載内容について連携を取りながら作成しました。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ・同左 ・同左。
広報・PR	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた 1 月に町田市ちょこっとアンケートで「心のバリアフリー」に関するアンケートを実施したほか、2 月に中央図書館の特集コーナーにて、心のバリアフリー啓発に向けた展示を行いました。	◎：広報・PR を行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った ・1 月に町田市ちょこっとアンケートで「心のバリアフリー」に関するアンケートを実施しました。 ・同月に忠生図書館の特集コーナーにて、心のバリアフリー啓発に向けた展示を行いました。

《推進分野2》

		・X（旧 Twitter）にて、福祉総務課のアカウントで、心のバリアフリーに関するクイズや紹介を行いました。（投稿数：36 件、総閲覧数：48,116 件）
--	--	--

12-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	「心のバリアフリーハンドブック」の改定に当たって、協議会の委員だけでなく、障がい当事者ヒアリングで多くの団体に意見聴取を行うことができました。	・「心のバリアフリーハンドブック」の改定に当たって、協議会の委員だけでなく、障がい当事者や事業者、子どもなど多くの意見聴取を実施しました。 ・X（旧 Twitter）での啓発（投稿数：36 件、総閲覧数：48,116 件）や事業者と協力して心のバリアフリーに関するイベント（参加者数：14 名）を実施しました。 ・「心のバリアフリーハンドブック」改定に係るプレスリリースを行い、1 社の全国紙の地方版の記事となりました。
問題点、課題	「心のバリアフリー」の認知度を向上させるため、例年、中央図書館で実施している特集コーナー以外の周知啓発方法を検討する必要があります。	・改定した「心のバリアフリーハンドブック」の活用方法について検討する必要があります。 ・福祉や心のバリアフリー等に興味がない人への周知啓発方法を検討する必要があります。
次年度以降の対応策等	・教育啓発特定事業計画の進捗状況の確認方法を引き続き検討していきます。 ・「心のバリアフリーハンドブック」を活用した動画の作成などを検討します。	・例年、「心のバリアフリーハンドブック」を小学4年生に配布していますが、ハンドブック活用のために指導者用別冊を作成します。 ・「心のバリアフリーハンドブック」を活用した動画の作成やイベントなどを検討します。

13 市立小・中学校での心のバリアフリー教育の推進

担当課：教育センター、指導課

13-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●心のバリアフリー教育の実施			

13-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
○：概ね順調	○：概ね順調

13-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
児童生徒の発達段階に応じ、障がいの有無にかかわらず、共に社会性や人間性を育み、お互いを尊重し合う「心のバリアフリー教育」を具体的に推進してきました。具体的には、通常の学級と特別支援学級＜特別支援学校＞との交流の機会を確保することで、交流教育を推進することができました。	児童生徒の発達段階に応じ、障がいの有無にかかわらず、共に社会性や人間性を育み、お互いを尊重し合う「心のバリアフリー教育」を引き続き実施してきました。具体的には、通常の学級と特別支援学級＜特別支援学校＞との交流の機会を確保することや今後の取り組みについて関係者間で協議することで、交流教育を推進することができました。

13-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 就学相談や進学相談をお受けいただいた方々から適宜、対応状況を聴取しました。	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 同左
協働	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 関係団体等との意見交換会を年間を通じて2回実施しました。	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 同左

《推進分野２》

庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた発達支援課をはじめ関係機関と連携し、「第３期町田市特別支援教育推進計画」を策定しました。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた関係機関等と連携し、「第３期 町田市特別支援教育推進計画」の進捗状況との確認を行いました。
広報・PR	○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた特別支援学級との交流については、教育要覧の「町田の教育」で紹介をしています。	○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた同左

13-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	計画的に交流事業を実施したことで、実施校においては、児童生徒の互いを尊重する意識の醸成につながったと考えます。	計画的に交流事業を実施したことで、実施校においては、児童生徒の互いを尊重する意識の醸成につながったと考えます。また、今後に向けどのような連携が必要か具体的な在り方を関係者間で協議することもできました。
問題点、課題	継続的に活動を取り組んでいくためには、特別支援学校の状況も鑑み、日々連携を図っていくことが大切となります。	継続的に活動を取り組んでいくためには、特別支援学校の状況も鑑み、継続的に連携を図っていくことが大切となります。また、当事者をはじめとしたニーズを把握する必要もあります。
次年度以降の対応策等	交流及び共同学習の実施や、東京都立町田の丘学園との副籍交流、及び交流教育の実施については、連携を図る学校間の体制等を踏まえながらの実施を行っていくようにします。	同左

14 福祉教育の実施

担当課：社会福祉協議会、福祉総務課

14-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●福祉教育の実施			

14-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【協】○：概ね順調 【福】○：概ね順調	【協】○：概ね順調

14-3 取組内容

凡例【協】：社会福祉協議会 【福】：福祉総務課

2023 年度	2024 年度
【協】福祉体験学習を小学校 32 校、中学校 5 校で実施しました。手話 18、点字 17、車いす 20、アイマスク 23、障がいのある方からの講話 17 の授業にボランティア団体、障がい当事者を含む団体や障がい当事者から協力いただきました。 【福】福祉教育の現場を見学して現状を把握したほか、町田市社会福祉協議会と「心のバリアフリーハンドブック」を活用した福祉教育が実施できないか検討を行いました。	【協】福祉体験学習を小学校 32 校、中学校 3 校、中学校 1 校で実施しました。手話 23、文字支援 1、点字 16、車いす 16、アイマスク 22、障がいのある方からの講話 16、ボランティア学習 1 の授業にボランティア団体、障がい当事者を含む団体や障がい当事者から協力いただきました。

14-4 プロセス評価

凡例【協】：社会福祉協議会 【福】：福祉総務課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【協】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】福祉体験学習を実施する際、依頼内容によっては、事前打ち合わせから障がい当事者の協力者や協力ボランティアに参加いただき、当日の内容について主催学校と協議しました。 【協】福祉体験学習協力者情報交換会を開催し、協力者からのアンケート調査や意見交換会を実施しました。	【協】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】同左 【協】同左

《推進分野２》

	【福】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【福】町田市社会福祉協議会が実施する福祉教育ボランティアの会議に参加し、「心のバリアフリーハンドブック」の活用に向けた説明を行い、改定予定の内容についてご意見をいただきました。	
協働	【協】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】手話 18、点字 17、車いす 20、アイマスク 23、障がいのある方からの講話 17 の授業にボランティア団体、障がい当事者を含む団体や障がい当事者から協力いただき福祉体験学習を実施しました。 【福】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】町田市社会福祉協議会が実施する福祉教育の見学を行ったほか、「心のバリアフリーハンドブック」の活用に向けた検討を行いました。	【協】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】手話 23、文字支援 1、点字 16、車いす 16、アイマスク 22、障がいのある方からの講話 16、ボランティア学習 1 の授業にボランティア団体、障がい当事者を含む団体や障がい当事者から協力いただきました。
庁内連携	【協】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】社会福祉協議会との打ち合わせや社会福祉協議会が実施したボランティア運営委員会・地域福祉推進部会で福祉教育に関する情報交換を行いました。 【福】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】障がい福祉課と連携して、福祉教育に「心のバリアフリー」に関する事業を紐づけることができないか検討を行いました。	【協】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】本会が開催するボランティアセンター運営委員会に福祉総務課から委員として参加いただき、福祉教育に関する意見交換を行った。また、福祉のまちづくり推進協議会担当者をゲストスピーカーとして招き、心のバリアフリーハンドブックについて情報提供していただいた。
広報・PR	【協】○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた 【協】社会福祉協議会のホームページで福祉体験学習に関する動画公開の他、体験学習申し込みの流れなどを公開しています。 【福】－：広報・PR は実施しなかった 【福】福祉教育は学校を対象にした事業のため、市民向けの福祉教育に関する広報・PR は行っていません。	【協】○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた 【協】同左

14-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【協】：社会福祉協議会

【福】：福祉総務課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【協】2022 年度に社会福祉協議会のホームページをリニューアルし、福祉体験学習のページも更新しました。学校関係者にも福祉体験学習の申込から実施の流れがわかるよう工夫しています。 【福】今まで行っていなかった福祉教育の見学を行い、実際に行われているプログラムを知ることで、「心のバリアフリーハンドブック」を活用した教育が実施できないか具体的に検討を進めることができました	【協】社会福祉協議会のホームページで福祉体験学習のページを公開しています。学校関係者にも福祉体験学習の申込から実施の流れがわかるよう工夫しています。
問題点、課題	【協】福祉体験学習を担うボランティアの不足。担い手の養成講座を企画したが、申込者がなく、開催できなかったです。 【福】町田市社会福祉協議会の抱えるボランティアの担い手不足という課題により、福祉教育における「心のバリアフリーハンドブック」の活用がどこまで可能か検証を行っていく必要があります。	【協】福祉体験学習を担うボランティアが不足しています。担い手の高齢化が進み、新しい担い手の確保が難しいです。
次年度以降の対応策等	【協】担い手養成講座を再度企画予定です。 【福】福祉教育での「心のバリアフリーハンドブック」の活用を進められるよう、引き続き町田市社会福祉協議会の課題を踏まえて検討を行います。	【協】担い手となっていただけたような、ボランティア団体や福祉施設等とのマッチングにつながるよう声をかけていきます。

15 生涯学習におけるユニバーサルデザインの啓発

担当課：生涯学習センター

15-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●「生涯学習センター」の事業計画に基づき運営			
	●持続可能な仕組みづくり			

15-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
◎：順調	○：概ね順調

15-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
・「生涯学習センター」の事業計画に基づき、「まちだの福祉講座」事業及び「障がい者青年学級」事業を実施しました。 ・より多くの障がい者の方に生涯学習の機会を提供できるように「障がい者青年学級」事業の持続可能な仕組みの再構築に向けた検討を行いました。	・「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、「まちだの福祉講座」事業及び「障がい者青年学級」事業を実施しました。 ・支援スタッフが減少傾向にあるなか、改修工事に伴う生涯学習センターの休館中においても、支援スタッフをはじめ事業関係者と「障がい者青年学級」事業を継続し安全に実施できるよう、検討を重ねました。

15-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた ・「まちだの福祉講座」では、障がい当事者の助言を受けながらプログラムを検討し、「障がい者青年学級」では、学級生との話し合いを通じて、事業を運営しました。 ・障がい者青年学級事業関係者、特別支援学校の生徒・保護者等へのアンケート(354 人)やヒアリング(11 人)により生涯学習に関するニーズを把握し、生涯学習センター運営協議会で再構築に関する意見聴取を行いました。	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた ・「まちだの福祉講座」では、障がい当事者の助言を受けながらプログラムを検討し、「障がい者青年学級」では、学級生との話し合いを通じて、事業を運営しました。

《推進分野２》

協働	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた ・「まちだの福祉講座」では、プログラム委員として選任した、福祉分野に造詣が深い市内研究者、NPO 職員、障がい当事者、修了者らと協力し、プログラムの検討と講座の運営にあたりました。 ・「障がい者青年学級」では、活動にあたり市民たる支援スタッフとの会議の場を設けたり、外部団体が主催するコンサートに参加協力したりすることで障がいに関する啓発活動を行いました。	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた ・同左 ・「障がい者青年学級」では、外部団体主催のコンサートに参加することで障がいに関する啓発活動を行うとともに、事業見直しに関する進捗状況を生涯学習センター運営協議会に適宜報告しました。
庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた福祉総務課と連携して、人権パネル展において、「まちだの福祉講座」や「障がい者青年学級支援スタッフ募集」等のポスターを展示することで、人権に関する取組の啓発活動を行いました。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた福祉総務課と連携して、人権パネル展において、「まちだの福祉講座」等のポスターを展示することで、人権に関する取組の啓発活動を行いました。
広報・PR	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた ・市ホームページ・市広報・生涯学習情報誌等への掲載のほか、チラシ・ポスターの市内各施設への配布等により事業の周知を行いました。 ・「障がい者青年学級支援スタッフ募集」にあたっては、近隣大学の授業に出向くなどして、本事業のPRを行いました。	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた ・同左 ・同左

15-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	・「まちだの福祉講座」では、主な対象者を前期講座は高齢者、後期講座は生産年齢層とすることで、幅広い世代に関心を持ってもらえるような講座づくりを行いました。 ・「障がい者青年学級」では、学級活動中に行う班長会などの話合いで挙げた学級生の要求や、活動日前後に行う会議で出された支援スタッフの意見を、学級運営の工夫に結びました。	・「まちだの福祉講座」では、講座受講後に学習成果を地域活動等へ繋げるため、前期は「自身に何ができるかを見つけるためのきっかけづくり講座」を、後期は、地域活動等を行う団体の活動を実際に見学・体験するなど「自ら行動に移すための講座」を実施しました。 ・「障がい者青年学級」では、改修工事に伴う生涯学習センターの休館中においても、活動場所や活動日数、支援スタッフ体制の調整などを行い、事業を継続し安全に実施できました。
問題点、課題	・まちだ市民大学 HATS は、受講者の学習成果を地域に還元してもらうことを事業の目的としていますが、実際には各受講者の個人学習に留まっている状況です。そのため、受講者に学習成果の還元を意識してもらえるよう講座の内容を見直す必要があります。 ・「障がい者青年学級」では、学級生の固定化・高齢化、支援スタッフの減少など様々な問題が生じています。	・「まちだの福祉講座」は、2024 年度に事業の目的である受講者に学習成果の還元を意識してもらえるよう講座内容を見直したにもかかわらず、講座申込者が減少傾向にあります。なぜ、申込者が減少したのかを分析し、講座内容を見直す必要があります。 ・「障がい者青年学級」では、現在も支援スタッフが減少傾向にあるうえ、2025 年度以降も改修工事に伴う生涯学習センターの休館が続きます。
次年度以降の対応策等	・「まちだの福祉講座」は「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、「学びを深め、活かす」ことができる講座に内容を見直して実施します。 ・「障がい者青年学級」では、支援スタッフの増加は見込めず、新たな学級生を迎えられない状況が続いていることから、引き続き事業を継続するための再構築に取り組みます。	・2025 年度に関しては、「まちだの福祉講座」の講座内容を見直し、より気軽に参加できるような事業を、プログラム委員とともに構築していきます。 ・「障がい者青年学級」では、引き続き安全を最優先に考えた対策を講じるとともに事業を継続するための再構築に取り組みます

16 市職員の心のバリアフリー研修の実施

担当課：職員課、福祉総務課

16-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●職員研修の実施			
	●アンケート等の実施・検討			

16-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【職】◎：順調	【職】◎：順調
【福】◎：順調	【福】◎：順調

16-3 取組内容

凡例【職】：職員課 【福】：福祉総務課

【障】：障がい福祉課

2023 年度	2024 年度
【職】新規採用職員研修において、心のバリアフリーを含む「ユニバーサル社会推進のまちづくり」研修を実施しました。 【職】市職員の「障害」への理解を深めるため「障害平等研修」を実施しました。 【福】新規採用職員に向けて、ユニバーサル社会のまちづくりを学ぶ研修を行いました。 【福】情報バリアフリーの一環として、庁内希望者へ音声コード「Uni-Voice」の操作研修を実施し、視覚障がい者や高齢者への情報アクセシビリティの必要性について啓発を行いました。（参加者数：22 名）	【職】同左。 【職】同左。 【職】市職員の手話を学ぶ意欲を高めるために、「手話入門研修」を行いました。 【福】情報バリアフリーの一環として、庁内希望者へ音声コード「Uni-Voice」の操作研修を1月に実施し、視覚障がい者や高齢者とのコミュニケーションに便利なアプリの情報の紹介や、その人々への情報アクセシビリティの必要性について啓発を行いました。（参加者数：15 名） 【障】福祉総務課や選挙管理委員会と連携し、障がい理解に関してのeラーニングを実施しました。

16-4 プロセス評価

凡例【職】：職員課 【福】：福祉総務課

【障】：障がい福祉課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【職】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【職】研修後に研修受講報告兼アンケートを実施することで受講者からの意見を聴取しました。 【福】－：意見聴取を実施しなかった 【福】庁内研修のため、特に当事者の意見を聞く機会はありませんでした。	【職】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【職】同左 【福】－：意見聴取を実施しなかった 【福】同左
協働	【職】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【職】市職員の「障害」についての理解を深めるため、障がい当事者である外部講師を依頼しました。 【福】○：事業者や団体と協働する予定はなかったが、必要を感じ実施した 【福】音声コード「Uni-Voice」操作研修を行うに当たって、「Uni-Voice」を作成・普及を行っている事業者と連携し、講師を依頼しました。	【職】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【職】市職員の「障害」や「手話」についての理解を深めるため、障がい当事者である外部講師を依頼しました。 【福】－：協働はしなかった 【福】庁内研修のため、特に市民や事業者と協働する機会はありませんでした。
庁内連携	【職】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【職】まちだユニバーサル社会推進計画の担当課である福祉総務課と連携し、新規採用職員（庁内職員）向けに研修を実施しました。 【職】（仮称）障がい者差別解消条例の制定に向けて、職員に「障害とは何か」を考えるきっかけを作り、自分から障害を解消するために行動する意識を持ってもらうため、担当課である障がい福祉課と連携し、市職員向けに研修を実施しました。	【職】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【職】まちだユニバーサル社会推進計画担当課の福祉総務課と連携し、新規採用職員向けに研修を行いました。 【職】（仮称）障がい者差別解消条例の制定に向けて、職員に「障害とは何か」を考えるきっかけを作るために、障がい福祉課と連携し、研修を行いました。 【職】職員の聴覚障がいのある方々への理解を深め、手話を学ぶ意欲を高めるために、障がい福祉課と連携し研修を行いました。

《推進分野2》

【福】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】新規採用研修におけるユニバーサル社会のまちづくりを学ぶ研修については、職員課と連携して実施しました。	【障】◎：庁内各課と連携する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【障】福祉総務課や選挙管理委員会と連携し、障がい理解に関するeラーニングを行いました。
---	---

16-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【職】：職員課

【福】：福祉総務課

【障】：障がい福祉課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【職】講師（地域福祉部福祉総務課職員）と研修内容を調整し、「①現在の町田市の現状」「②ユニバーサル社会・ユニバーサルデザイン・バリアフリーについて」「③業務上のいろいろなルール」「④『ユニバーサル社会』の推進」の4つの項目で研修を実施しました。 【職】障がい福祉課と調整し、外部講師を招いて研修を実施しました。 【福】毎年度実施している新規採用職員研修のほか、今年度から庁内の希望者へ音声コード「Uni-Voice」研修を実施することができ、新規採用職員以外の職員へも心と情報のバリアフリーに関する啓発を行うことができました。	【職】講師（地域福祉部福祉総務課職員）と研修内容を調整し、「現在の町田市の現状」「ユニバーサル社会・ユニバーサルデザイン・バリアフリーについて」「業務上のいろいろなルール」「『ユニバーサル社会』の推進」の4つの項目で研修を行いました。 【職】障がい福祉課と調整し、外部講師を招いて研修を行いました。 【職】職員課内で調整し、外部講師及び外部講師が聴覚障がい当事者であるため手話通訳も招き研修を行いました。 【福】昨年度から庁内の希望者へ音声コード「Uni-Voice」研修を実施し、新規採用職員以外の職員にも心と情報のバリアフリーに関する啓発を行うことができました。 【障】福祉総務課や選挙管理委員会と連携し、障がい理解に関するeラーニングを実施しました。
問題点、課題	【福】音声コード「Uni-Voice」研修は希望者のみの実施だったため、より多くの職員の心と情報のバリアフリーを理解してもらうための啓発方法を考える必要があります。	【福】同左 【福】改定した「心のバリアフリーハンドブック」及び「情報バリアフリーハンドブック」を活用した研修を検討する必要があります。

《推進分野２》

次年度以降の 対応策等	【福】eラーニングの活用など、個人で受講可能な研修方法を検討・実施する必要があります。	【福】eラーニングの活用など、個人で受講可能な研修方法や「心のバリアフリーハンドブック」及び「情報バリアフリーハンドブック」を活用した研修を検討します。
------------------------	--	---

1 7 交通安全情報の発信及び交通安全学習の充実

担当課：市民生活安全課

17-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●交通安全情報の発信及び交通安全学習の充実			

17-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
◎：順調	◎：順調

17-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
・広報まちだで、自転車の交通ルールや自転車用ヘルメット着用の必要性を周知しました。 ・市立小学校 42 校において 3 年生を対象とした自転車教室、市立中学校 7 校においてスタントマンを活用した自転車教室を実施しました。 ・高齢運転者や、福祉施設等で送迎を行っている方を対象とした安全運転実技教室を実施しました。 ・特別支援学校において、障がいの度合に合わせて交通ルールを学べる交通安全教室を実施しました。	・同左 ・同左 ・自転車用ヘルメット着用の更なる促進のため、ヘルメット着用の有用性を訴える動画及びポスター・チラシを作成しました。

17-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 高齢者や、障がい者の送迎業務に従事している職員等に対し、交通安全に関する疑問等を気軽に聞くことができるミーティングを実施し、ミーティングを通して得た情報を基に市が行う啓発活動に活用しました。	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 中学校自転車教室を実施した4校において、全校生徒を対象に、認知度の低い交通ルールやヘルメットを着用しない理由について学校を通して調査しました。
協働	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた ・警察署、交通安全協会をはじめとする様々な団体と協働し、交通ルールやマナーの周知や、交通安全グッズの配布などの啓発活動を実施しました。 ・子どもセンターの夏祭りにおいて、都立町田総合高等学校の生徒と一緒に、交通安全に関する啓発活動を実施しました。	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた ・同左 ・町田市内で活動する市民団体等に、交通安全の要素を取り入れた講座や啓発活動を行っていただく事業を実施しました。
庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ・文化振興課等が実施する地域のイベントに参加して、幅広い世代の市民に対し、交通ルールやマナーの啓発、交通安全グッズの配布をしました。 ・福祉総務課と連携し、民生委員協力のもと、75 歳以上の高齢者がいる約 36,000 世帯に交通安全に関するチラシを配布しました。 ・図書館と連携し、中央図書館において交通安全に関する本を集めた特集コーナーを設置しました。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ・子ども総務課等が実施する地域のイベントに参加して、幅広い世代の市民に対し、交通ルールやマナーの啓発、交通安全グッズの配布をしました。 ・同左
広報・PR	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた 広報まちだ、ホームページにおいて、全国交通安全運動や交通安全教室等の周知、交通安全ミーティング参加者の募集などを行いました。	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた 2024 年 11 月に、自転車の「ながらスマホ」や「飲酒運転」に関する罰則が強化されたため、市ホームページにおいて、自転車の最新の交通ルールやマナーをわかりやすく伝えるページを作成しました。

17-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	- 交通安全啓発やミーティングの参加者の年齢層や属性に合わせて、内容や手法を変更して実施しました。 - 人が集まるイベント等に参加することで、より多くの方に交通ルールやマナーの周知を行うことができました。	自転車用ヘルメット着用の更なる促進のため、町田市出身のBMX レーサー岸龍之介選手を起用して作成した「自転車用ヘルメット着用促進啓発動画」を、様々な年齢層の方にご覧いただけるよう、神奈川中央交通株式会社町田営業所が運行するバス 50 台の車内サイネージにおいて放映しました。
問題点、課題	イベント等において、若年層の参加が少なく、若年層に対する交通安全啓発が十分に実施できていません。	コロナ禍を経て、市内の交通人身事故件数は、2021 年から 4 年連続増加しています。
次年度以降の対応策等	都立高等学校等において、自転車用ヘルメットの着用の促進や、交通ルールやマナーの周知など、啓発活動を実施します。	交通事故を自分事として捉えてもらえるよう、啓発対象者の年齢層や属性に合わせて、内容や手法を工夫しながら啓発活動を行っていきます。

18 【重点事業】情報のバリアフリー、ユニバーサルデザインの推進

担当課：福祉総務課、広報課

18-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●情報のバリアフリー、ユニバーサルデザインの周知・啓発			
	●「情報バリアフリーハンドブック」全面改訂		—	—
	●広報活動の市民満足度（2026 年度 72%以上）			

18-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【福】◎：順調	【福】◎：順調
【広】○：概ね順調	【広】○：概ね順調

18-3 取組内容

凡例【福】：福祉総務課 【広】：広報課

2023 年度	2024 年度
【福】情報バリアフリー啓発の一環として、音声コード「Uni-Voice」を市職員の誰もが作成できるよう、作成ソフトを導入しました。 【福】「情報バリアフリーハンドブック」改定に当たって、障がい当事者へのヒアリングを実施し、骨子案に反映しました。 【広】必要な情報が必要とする人に適切に届くよう、市の情報を発信している情報ツール（広報紙、ホームページ、SNS など）を PR するため、市内で開催されるイベント等に出展しました。 【広】広報まちだ6月1日号から LINE のプッシュ通知を、10月1日号から「いちのいち」での配信を開始しました。 【広】視覚障がい者や高齢者、外国人に有効な情報配信ツール「カタログポケット」を導入し広報紙の配信を開始しました。	【福】X（旧 Twitter）で、情報バリアフリーについて、発信を行いました（投稿数：7 件、総閲覧数：2,721 件）。発信形態はクイズ形式にしました。 【福】「情報バリアフリーハンドブック」については、商工会議所サービス部会の協力を得て、情報バリアフリーハンドブック改定に係るアンケートを実施・反映し、ハンドブックを改定しました。 【福】「情報バリアフリーハンドブック」の改定に係るプレスリリースを行い、1 社の全国紙の地方版の記事となりました。 【福】商工会議所と情報バリアフリー等の合理的配慮について勉強会を 2 回行いました。 【広】町田市ホームページを更改し、子どもや高齢者、障がい者、外国人などにとっても見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しました。 【広】電子チラシサービス（アプリ）「Shufoo！（シュフー）」を導入しました。 【広】必要な情報が必要とする人に適切に届くよう、市内で開催されたイベントなどで、市の情報を発信している情報ツール（広報紙、ホームページ、SNS など）を PR しました。

18-4 プロセス評価

凡例【福】：福祉総務課 【広】：広報課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【福】◎：意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【福】情報バリアフリーハンドブックの改定に当たり、障がい当事者へのヒアリングを実施し、多くの方のご意見をお伺いしました。（意見を聞いた団体等数：9 団体）。 【広】－：意見聴取を実施しなかった 【広】広報課単独で意見聴取する機会がなかったため。	【福】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】市民意見募集を実施し、21 名の方から 24 件のご意見をいただきました。 【広】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【広】広報まちだ 6 月 15 日号の特集（「町田市障がい者差別をなくし誰もがともに生きる社会づくり条例」）の際、日常的に車椅子を使用している方にインタビューし掲載しました。また、シティプロモーションサイト「まちだで好きを続ける」でも同じ方を紹介しました。
協働	【福】○：事業者や団体と協働する予定はなかったが、必要を感じ実施した 【福】視覚障がい者を支援する音声誘導についての先進的な事例に取り組んでいる事業者が合同で実施しているセミナーに参加し、実際に複数の視覚誘導システムを体験しました。それを踏まえ、音声コード「Uni-Voice」作成ソフトの導入に向け、ソフトを作成・普及している事業者と連携して研修も実施しました。 【広】△：事業者や団体と協働する予定はなかったが、協働する機会を得た 【広】広報まちだ 7 月 15 日号で地区協議会を特集した際、町田第二地区協議会の協力を得て紙面を完成することができました。また、これを機に、9 月 16 日に開催された同協議会主催の「まち 2 フェス」に広報課として参加し、市の情報	【福】◎：事業者や団体と協働する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【福】町田市内事業者へアンケートを行い、10 事業者から回答をいただきました。 【広】△：事業者や団体と協働する予定はなかったが、協働する機会を得た 【広】関係団体が主催する研修会に参加し、情報ツール（広報紙、ホームページ、SNS など）を周知することができました。

《推進分野2》

	を発信している情報ツールについて多くの市民等にPRすることができました。	
庁内連携	【福】◎：庁内各課と連携する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【福】「情報バリアフリーハンドブック」については、障がい福祉課と掲載内容について連携を取りながら作成しました。また、音声コード「Uni-Voice」を活用できる課へ働きかけを行い、活用に向けた支援を行いました。 【広】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【広】広報紙発行について、特にメインニュース面は、担当課と連携して作成するとともに、ユニバーサルデザインを考慮し読みにくい（判別しにくい）デザイン要素がある字体などを使わないように心掛けました。また、デジタル戦略室と連携し、情報配信ツール「カタログポケット」を導入しました。	【福】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】「情報バリアフリーハンドブック」については、障がい福祉課や情報保障に関する支援を行っている課と掲載内容について連携を取りながら作成しました。また、音声コード「Uni-Voice」を活用できる課へ働きかけを行い、活用に向けた支援を行いました。 【広】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【広】ホームページの更改について、関係課と連携を図り、作業を進めました。 【広】広報紙発行について、関係課と連携を図るとともに、ユニバーサルデザインを考慮し、誰にとっても読みやすい字体・色を選ぶよう心掛けました。また、6月15日号では、障がい福祉課と連携し、「町田市障がい者差別をなくし誰もがともに生きる社会づくり条例」をテーマに特集しました。
広報・PR	【福】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【福】現行の「情報バリアフリーハンドブック」については、市ホームページで公表しているほか、配布を希望している方へ冊子の配布を行いました 【広】◎：広報・PRを行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った	【福】◎：広報・PRを行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【福】X（旧 Twitter）で、情報バリアフリーについて、発信を行いました。（投稿数：7件、総閲覧数：2,721件）発信形態はクイズ形式にしました。 【福】「情報バリアフリーハンドブック」の改定に係るプレスリリースを行い、1社の全国紙の地方版の記事となりました。 【広】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた

《推進分野2》

	【広】必要な情報が必要とする人（市民など）に適切に届くよう、市の情報を発信している情報ツール（広報紙、ホームページ、SNS など）をPR するため、市内で開催されるイベント等に出展しました。	【広】必要な情報が必要とする人（市民など）に適切に届くよう、市内で開催されたイベントなどで、市の情報を発信している情報ツール（広報紙、ホームページ、SNS など）をPR しました。また、広報紙の配布について、市民生活に密着した拠点配布場所（スーパーや移動販売車）を拡充しました。
--	--	--

18-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【福】：福祉総務課

【広】：広報課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【福】市民の情報アクセシビリティ強化のため、音声コード「Uni-Voice」を市職員の誰もが作成できるよう、作成ソフトを導入することができました。 【広】2023 年 6 月 1 日号から広報紙をリニューアルしました。ユニバーサルデザインを考慮したデザイン及び編集を心がけました。 【広】2024 年 3 月 1 日号から、視覚障がい者や高齢者、外国人にも有効な情報配信ツール「カタログポケット」を導入し広報紙の配信を開始しました。	【福】「情報バリアフリーハンドブック」の改定では、市民意見募集や事業者へのアンケートを通じ、多くの方々の声を反映させ、より実用的で多くの人に役立つ内容にしました。 【福】情報バリアフリーの普及啓発を進めるために、今年度から新たに X（旧 Twitter）を活用し、多くの方の目に留まるような工夫を行いました。（投稿数：7 件、総閲覧数：2,721 件） 【福】「情報バリアフリーハンドブック」の改定に係るプレスリリースを行い、1 社の全国紙の地方版の記事となりました。 【広】町田市ホームページを更改し、子どもや高齢者、障がい者、外国人などにとっても見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しました。 【広】広報紙を作成する際、ユニバーサルデザインを考慮し、誰にとっても読みやすい字体・色を選ぶよう心掛けました。 【広】「町田市障がい者差別をなくし誰もがともに生きる社会づくり条例」の周知を行いました。 【広】広報紙の配布について、より多くの市民に情報を届けられるよう、市民生活に密着した拠点配布場所（スーパーや移動販売車）を拡充しました。

《推進分野2》

問題点、課題	【福】更なる情報アクセシビリティの必要性について、市職員だけでなく、事業者に向けた啓発を行っていく必要があります。 【広】情報配信ツール「カタログポケット」を普及させる必要があります。	【福】改定した情報バリアフリーハンドブックを活用することで、庁内の各部署の情報バリアフリーに対する意識を向上させるとともに、より多くの民間事業者にもこの意識を広げていく必要があります。 【広】誰にとっても見やすい、読みやすいデザインを考慮しながら編集していく必要があります。 【広】音声読み上げ機能を有するアプリがあることを、より多くの人にお知らせしていく必要があります。
次年度以降の対応策等	【福】改定予定の「情報バリアフリーハンドブック」について、事業者への意見聴取を行います。 【福】改定後の「情報バリアフリーハンドブック」を市職員、事業者へ配布、啓発を行います。 【広】引き続き、ユニバーサルデザインを考慮した情報発信に取り組むとともに、視覚障がい者などに向けて、「カタログポケット」や点字版及び声の広報がある旨を積極的にお知らせしていきます。	【福】民間事業者と協働し、「情報バリアフリーハンドブック」を活用した研修・勉強会を行います。 【福】改定後の「情報バリアフリーハンドブック」を市職員、事業者へ配布、啓発を行います。 【福】引き続き、情報バリアフリーについて X（旧 Twitter）にて発信していきます。 【広】引き続き、ユニバーサルデザインを考慮した情報発信に取り組むとともに、視覚障がい者などに向けて、点字版及び声の広報があること、また、音声読み上げ機能を有するアプリがあることをお知らせしていきます。

19 手話通訳者・要約筆記者の派遣

担当課：障がい福祉課

19-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●手話通訳者、要約筆記者の派遣			

19-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
○：概ね順調	○：概ね順調

19-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
・手話通訳者・要約筆記者を派遣し、コミュニケーション支援を実施しました。 ・手話通訳者の派遣を利用している聴覚障がい者との懇談会を開催しました。	・同左 ・同左

19-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた手話通訳者の派遣を利用している聴覚障がい者との懇談会を開催し、頂いた意見において対応可能なものについて派遣事業に反映しました。	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた同左
協働	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた手話通訳者の派遣を利用している聴覚障がい者との懇談会を開催し、頂いた意見において対応可能なものについて派遣事業に反映しました。	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた同左

《推進分野２》

庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ・生活援護課、子ども家庭支援センター、広聴課へ事業案内を提供しました。 ・また、市主催の会議や講演会に手話通訳者・要約筆記者を派遣しました。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ・同左 ・同左
広報・PR	○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 市ホームページや広報まちだで手話通訳者・要約筆記者の派遣制度について周知を行いました。	○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 同左

19-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	手話通訳者の派遣を利用している聴覚障がい者との懇談会を開催し、頂いた意見において対応可能なものについて派遣事業に反映しました。	同左
問題点、課題	聴覚障がいがある人が訪れる頻度の高い庁内窓口からの依頼が多く、訪れる頻度の低い窓口では筆談で対応し、手話通訳者派遣が活用されていない可能性があります。	同左
次年度以降の対応策等	情報保障が必要な方に庁内部署への手話通訳者派遣制度の周知をはかります。	同左

20 「高齢者のための暮らしのてびき」及び「障がい者サービスガイドブック」の作成

担当課：いきいき総務課、障がい福祉課

20-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●各てびき・ガイドブックの発行及び配布			

20-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【い】◎：順調	【い】◎：順調
【障】◎：順調	【障】◎：順調

20-3 取組内容 凡例【い】：いきいき総務課 【障】：障がい福祉課

2023 年度	2024 年度
【い】3年に1度発行しており、2024年4月発行に向けて、関係する庁内各課や外部の関係機関に掲載内容の確認を行い、13,000部を作成、発行予定です。 【障】障がいに関する各種相談窓口や制度、市内事業所一覧等を記載した「障がい者サービスガイドブック」を継続して発行し、相談窓口等の周知を図ることで、障がいがある人に必要な情報やサービスが行き届くようにしました。 【障】音訳版、点訳版、音声コード版を作成し、視覚障がいがある人にもガイドブックの情報が届くようにしました。	【い】3年に1度発行しており、2024年4月に13,000部を発行しました。 【障】障がいに関する各種相談窓口や制度、市内事業所一覧等を記載した「障がい者サービスガイドブック」を継続して発行し、相談窓口等の周知を図ることで、障がいがある人に必要な情報やサービスが行き届くようにしました。 【障】同左

20-4 プロセス評価

凡例【い】：いきいき総務課 【障】：障がい福祉課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【い】－：意見聴取を実施しなかった 【い】前回とほぼ同じ掲載内容にする予定だったため。 【障】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【障】音訳版及び点訳版の作成にあたり、毎年委託団体から内容に関するご意見をいただいています。また、町田市障がい者施策推進協議会委員からも内容の表記や構成についてご意見をいただきました。	【障】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【障】音訳版及び点訳版の作成にあたり、毎年委託団体から内容に関するご意見をいただいています。
協働	【い】○：事業者や団体と協働する予定はなかったが、必要を感じ実施した 【い】掲載記事の内容について確認を行いました。 【障】△：事業者や団体と協働する予定はなかったが、協働する機会を得た 【障】ガイドブックに掲載している内容について、毎年企業や関係機関等に内容確認の依頼を行っています。2023 年度は新規の他機関における事業の新規掲載はありませんでしたが、引き続き内容の改訂に取り組んでいきます。	【い】○：事業者や団体と協働する予定はなかったが、必要を感じ実施した 【い】同左 【障】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】ガイドブックに掲載している内容について、毎年企業や関係機関等に内容確認の依頼を行っています。2024 年度は、新たに他の機関による事業を4件追加掲載しました。引き続き内容の改訂に取り組んでいきます。
庁内連携	【い】○：庁内各課と連携する予定はなかったが、必要を感じ連携を実施した 【い】掲載記事の内容について確認を行いました。 【障】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】ガイドブックに掲載している事業は多岐にわたるため、庁内各課にも掲載内容の確認や新規事業の提案を行っています。2023 年度版では、新たに2事業を追加掲載しました。	【い】○：庁内各課と連携する予定はなかったが、必要を感じ連携を実施した 【い】同左 【障】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】ガイドブックに掲載している事業は多岐にわたるため、庁内各課にも掲載内容の確認や新規事業の提案を行っています。

《推進分野2》

広報・PR	【い】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【い】2024年4月以降に広報、ホームページに「高齢者のための暮らしのてびき」の2024年版が発行したことを掲載する予定です。 【障】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【障】広報まちだ5月15日号にてガイドブック（冊子版）の配布開始をPRし、12月1日号では、点字版・音訳版・音声コード版の配布開始を周知しました。合わせて、市ホームページでも冊子データ（全体版・分割版）の公開及び配布開始の案内を行いました。	【い】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【い】2024年4月以降に広報、ホームページに「高齢者のための暮らしのてびき」の2024年版が発行したことを掲載しました。 【障】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【障】広報まちだ5月15日号にてガイドブック（冊子版・ユニボイス版）の配布開始をPRし、10月1日号では、ガイドブック（点訳版・音訳版・音声コード版）のガイドブック配布開始を周知しました。合わせて、市ホームページでも冊子データ（全体版・分割版）の公開及び配布開始の案内を行いました。
--------------	--	---

20-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【い】：いきいき総務課

【障】：障がい福祉課

	2023年度	2024年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【い】冊子を作成するにあたり、页数や色の点で制約はありましたが、文字を大きくしたり、分かりやすい表現に変えたりといった変更を行いました。庁内各課や関係機関からの原稿修正についても、積極的に連携を取り、より良いものにするよう協力関係を築きました。 【障】ガイドブックの内容が読みやすくなるよう、文言の整理及びレイアウトの調整を行いました。さらに、事業ごとに対象の障がい種別を掲載し、情報をわかりやすく提供できるよう工夫しました。年間冊を配布し、広く市民に活用されていると感じています。	【い】ガイドブックの内容が読みやすくなるよう、文言の整理及びレイアウトの調整を行いました。さらに、事業ごとに対象の障がい種別を掲載し、情報をわかりやすく提供できるよう工夫しました。年間約3,000冊を配布し、広く市民に活用されていると感じています。 【障】QRコードを掲載した記事が前回の2021年度版と比べると若干ではあるが増加した。

《推進分野２》

問題点、課題	【い】発行部数を減らしました。庁内各課や関係機関からの配布だけではなく、高齢者が多く集まる場所で配布するなど配布方法に関してもう少し工夫して、高齢者が気軽に手に取ってもらえるようにする必要があると感じます。 【障】毎年内容の改訂を行っており、障がい福祉課全体で分担をして確認作業を行っていますが、作業期間は５か月に渡り、確認作業に担当者の業務時間が大幅に割かれてしまうことに問題意識を持っています。	【い】毎年内容の改訂を行っており、障がい福祉課全体で分担をして確認作業を行っていますが、作業期間は５か月に渡り、確認作業に担当者の業務時間が大幅に割かれてしまうことに問題意識を持っています。 【障】次回発行の際は、積極的にＱＲコードを載せた記事を増やしていきたい。
次年度以降の対応策等	【い】発行年度ではない年は掲載内容が最新となるよう、新旧対照表を作成する必要があります。 【障】担当者間の業務分担を明確化し、確認作業時間の短縮を目指します。	【い】同左 【障】同左

２１ 「まちだ子育てサイト」による子育て情報の発信

担当課：子ども総務課

21-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●情報の発信及び更新			
	●SNSの発信件数			
	180 件	216 件	228 件	240 件

21-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
○：概ね順調	○：概ね順調

21-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
・まちだ子育てサイトのトップページにある「目的からさがす」の項目に「オンライン申請」、「地図からさがす」の項目に「障がい児通所施設」を新設し、情報を探しやすくしました。 ・庁内への周知及び掲載の呼び掛けを行うことで、子どもやその保護者向けのイベント情報の充実を図りました。 ・庁内他部署が発信した子どもや子育てに関する情報を引用発信するなど、発信対象を拡大することで発信内容のさらなる充実を図りました。	・夏休みのイベント情報、年末年始の施設開所状況などをまとめたページを全体として作成し、トップページからアクセスできるようにすることで、情報を探しやすくしました。 ・同左 ・庁内他部署が発信した子どもや子育てに関する情報を引用発信するなど、発信内容のさらなる充実を図りました。

21-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た システム上、まちだ子育てサイト内にアンケート機能を設けることはできませんが、サイト内に「ご意見送信フォーム」を設け、ご意見をいただけるようにしています。	△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 同左
庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ・記事を掲載している各課とは、年2回の定期的な話し合いの場（運営管理定例会）を持ち、連携しました。 ・また、庁内への周知及び情報掲載の呼び掛けを行うことで、子どもやその保護者に向けた情報の充実を図りました。 ・SNS（X）において他部署が運用するアカウントとの相互フォローや発信内容の引用等を行い、連携しました。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた ・まちだ子育てサイトの運営課を4課追加し、子ども総務課のほか25課が運営に携わりました。運営課とは、年2回の定期的な意見交換や情報共有の場（運営管理定例会）を持ち、連携しました。また、庁内への周知及び情報掲載の呼び掛けを行うことで、子どもやその保護者に向けた情報の充実を図りました。 ・SNS（X）において、他アカウントとの相互フォローなどを行いました。
広報・PR	○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた ・子どもセンター等の市内施設にて、まちだ子育てサイトの周知用カードを配布しました。 ・母子健康手帳とともに配布される「母と子の健康バッグ」へまちだ子育てサイトの周知用カードを封入し、妊婦の方が妊娠期から必要な情報を手に入れられるように周知しました。 ・まちだ子育てサイトのトップページにSNSアカウントについて掲載し、周知しました。	○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた ・母子健康手帳とともに配布される「母と子の健康バッグ」へまちだ子育てサイトの周知用カードを封入し、妊婦の方が妊娠期から必要な情報を手に入れられるように周知しました。

21-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	・サイトのコンセプトである「見やすく 分かりやすく 検索しやすく」を推進し、より多くの人に伝わるような情報発信となるように文章の表現やサイトの構成を工夫しました。 ・運営管理定例会を 2 回開催する中で、サイトの関係部署と意見交換や情報共有を行い、発信内容の改善等を図りました。	・同左 ・同左 ・SNS では発信できる文字数に制限があるため、短い文章でも分かりやすい内容となるように表現を工夫しました。
問題点、課題	・子どもに関する情報を幅広く掲載するために、普段は情報を掲載していない部署にも漏れなくサイトの周知を行う必要があります。 ・同様に SNS での発信においても、他部署が発信する子どもに関する情報について、より確実に収集して発信する仕組みを構築する必要があります。	・同左 ・同左
次年度以降の対応策等	・子どもやその保護者向けの情報があれば、まちだ子育てサイトに掲載するように、定期的に庁内全体に呼び掛け、情報の充実を図ります。 ・SNS での発信においても、他部署の情報を発信する仕組みが構築でき次第、庁内全体への周知及び呼びかけを行います。	・同左 ・同左

２２ 図書館サービスのユニバーサルデザイン整備

担当課：図書館

22-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●視覚障がい者等向け資料の充実			
	●ボランティアとの連携、ボランティア講座の実施（年１回）			
	●「電子書籍サービス」の提供			
	4,900 点追加提供	1,000 点追加提供	2,000 点追加提供	1,000 点追加提供

22-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
○：概ね順調	○：概ね順調

22-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
・視覚障がい者等向け資料の充実を図るため、マルチメディアデジタル資料を購入しました。 ・ボランティアの技能向上を図るため、音訳経験者に向けた専門的な内容の講座を１回実施しました。 ・「電子書籍サービス」のタイトル数を増やし、サービス充実を図りました。	・視覚障がい者向けに録音図書再生機器の貸出制度を開始しました。 ・同左 ・経験者向けの点訳ボランティア講座を実施し、９名の方々にご参加いただきました。 ・同左 ・視覚障がい者専用電子図書館「アクセシブルライブラリー」を導入し、視覚障がい者の読書環境の充実を図りました。

22-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	○：意見聴取を実施する予定はなかったが、必要を感じ意見聴取を実施した 図書館を利用する障がい者等市民との電話対応時や来館対応時には積極的に意見を聞き、各個人の障がいの状況に応じたサービスの実施につなげました。実際に当事者からの意見を受け、中央図書館エントランスにおける点字ブロックの見直し工事を行うなど、障がい者等の市民が安全に来館できるように施設管理面での見直しを行いました。	○：意見聴取を実施する予定はなかったが、必要を感じ意見聴取を実施した 図書館を利用する障がい者等市民との電話対応時や来館対応時には積極的に意見を聞き、各個人の障がいの状況に応じたサービスの実施（資料提供等）につなげました。
協働	○：事業者や団体と協働する予定はなかったが、必要を感じ実施した ボランティア講座の実施に際し、参加希望者の市民に対し事前にアンケート調査を行い、どのような講座内容を希望するか意見を集約しました。そして講座実施前に、これら意見を講師に直接伝え、講師と協力して講座内容を構成しました。これにより、参加者のニーズに合った専門的な講座を実施しました。	○：事業者や団体と協働する予定はなかったが、必要を感じ実施した 夏休みの子供向けイベント（マルチメディアデイズ上映会）の実施に際し、図書館プランナー（図書館における若者利用促進企画を担う若者ボランティアグループ）と協働で企画・運営を行いました。
庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 「電子書籍サービス」の市立小・中学校の児童・生徒へのID付与については、指導課と連携することで実現することができました。これにより新たな読書の機会提供を行うことができました。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 障がい福祉課と連携して中央図書館で特集コーナーを設置し、障がい理解に関する図書館資料を展示しました。
広報・PR	○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 「電子書籍サービス」のPRについては、飲食店での名刺サイズのPRカードの配布、センターまつりなどでのPR、教育広報紙「まちだの教育」2024年3月号への特集記事の掲載など図書館に限らず広く実施することで、サービス新規利用者を増加させることができました。	○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 点字打ち体験やバリアフリー資料の上映会、読書補助用具（リーディングトラッカー）製作などのイベントを夏休み実施し、障がい者サービスについてPRを実施しました。

22-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	バリアフリー資料に関し情報収集を徹底し、いままで寄贈による保有のみであったマルチメディアデイジー資料を初めて購入し、資料を充実させました。ボランティア講座については、講座実施前に講師と綿密に調整をして効果的な内容でプログラムを構成したため、参加者満足度の高い講座を実施することができました。「電子書籍サービス」については、庁内他課と連携し市立小・中学校の児童・生徒に電子書籍サービス ID を付与することで、新たな読書機会を提供しました。	PR事業に関しては、図書館プランナーと協働することにより例年以上のイベントが実施出来ました。障がい者週間における中央図書館での特集コーナーの設置に関しては、市担当課と打合せを十分に行うことにより、充実した資料の展開を行うことが出来ました。新たな電子書籍サービスを追加で導入することで、視覚障がい者の読書環境の充実を図りました。
問題点、課題	現在サービスを利用している方以外の当事者の方へのサービスの実施を行うことが一番の課題です。そのためには、周知・PR面についてさらなる充実が求められるため、効果的な広報活動の実施について引き続き検討する必要があります。	同左
次年度以降の対応策等	引き続き計画を着実に進め、充実した図書館サービスの提供によりバリアフリーを実現していきます。また、制度導入や資料購入だけでなく、障がい当事者の方と接する中でニーズを確実に把握し、利用者満足度の向上を図っていきます。	同左

23 「町田市バリアフリーマップ」の整備

担当課：福祉総務課

23-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●情報の更新・拡充（毎年度）			
	●ホームページのリニューアル		●新ホームページの運営	

23-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
◎：順調	◎：順調

23-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
・各施設の整備状況の調査に基づき、町田市バリアフリーマップホームページを更新し、情報を提供しています。 ・スマートフォンからのアクセスに対応した視認性と検索性の高いホームページにリニューアルを行いました。	・同左 ・11 月 30 日に開催されたまちカフェにブースを出展し、40 名の方にご来場いただきました。来場者の方にはバリアフリーマップについて理解を深めていただきました。

23-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 町田市バリアフリーマップの内容について、市民からのご意見をお伺いしました。	○：意見聴取を実施する予定はなかったが、必要を感じ意見聴取を実施した まちカフェのブース出展時や日常の電話対応を通じて、「家族と出かける際に非常に助かる」といった肯定的なご意見や、市民の方から「バリアフリーマップが小さくて見づらい」という改善要望があり、町田市バリアフリーマップを作成している事業者と情報を共有しました。

《推進分野２》

協働	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 町田市バリアフリーマップを作成している事業者へホームページのリニューアル内容について助言を行いました。	◎：事業者や団体と協働する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った まちカフェにおいて、町田市バリアフリーマップを作成している事業者と協力してブースを出展し、40 名の方にご来場いただきました。バリアフリーマップの具体的な内容や活用方法を来場者の皆様にご紹介し、実際にマップを操作していただくことで、町田市のバリアフリーの取り組みについて知っていただき、理解を深めていただくことができました。
庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 各施設の整備状況について、土地利用調整課と連携を取りながら確認を行いました。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 市ホームページで法務課が公開しているオープンデータでは、1,931 件のダウンロードが行われ、多くの方々に活用されています。
広報・PR	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた 町田市バリアフリーマップホームページについて、市ホームページに掲載し、周知を行っています。	◎：広報・PR を行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った まちカフェでは、町田市バリアフリーマップを作成している事業者と協力し、ブースを出展しました。当日は 40 名の方にご来場いただき、このイベントを通じて、町田市バリアフリーマップを多くの方に知っていただく良い機会となりました。

23-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	2024 年度リニューアル予定だった町田市バリアフリーマップホームページについて、予定よりも早くリニューアルを完了することができました。	・まちカフェにおいて、町田市バリアフリーマップを作成している事業者と協力してブースを出展し、40 名の方にご来場いただきました。 ・バリアフリーマップの具体的な内容や活用方法を来場者の皆様にご紹介し、実際にマップを操作していただくことで、町田市のバリアフリーの取り組みに対する理解を深めていただけました。
問題点、課題	更に多くの人にバリアフリーマップを知ってもらい、利用してもらえるよう広報・PR を進めていく必要があります。	更に多くの人にバリアフリーマップを知ってもらい、利用してもらえるよう広報・PR を進めていく必要があります。
次年度以降の対応策等	町田市バリアフリーマップホームページについて、市ホームページ以外でも PR できるよう方法について検討をします。	町田市バリアフリーマップホームページについて、市ホームページやブース出展以外でも PR できるよう方法について検討をします。

24 【重点事業】避難施設のユニバーサルデザイン整備

担当課：施設課・新たな学校づくり推進課、防災課

24-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●体育館のユニバーサルデザインによる施設整備			
	●避難施設の環境整備			

24-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【施】○：概ね順調	【施】○：概ね順調
【防】○：概ね順調	【防】○：概ね順調

24-3 取組内容 凡例【施】：施設課 【防】：防災課

2023 年度	2024 年度
【施】建替えを行う2地区でPFI事業者の公募を開始し、1地区で基本・実施設計に着手しました。 【防】具体的な要配慮者の滞在スペースについて定めた避難施設データベースを、各避難施設開設・運営担当対策部及び町田市指定職員に周知・情報共有を図りました。また、地域との接点である避難施設関係者連絡会を71避難施設で開催し、自主防災組織等の地域住民へ周知・情報共有しました。加えて、障がい者、高齢者、乳幼児等の要配慮者に配慮するため、アルファ化米の個食パック化やユニバーサルデザインに配慮した備蓄食料の検討・導入を実施しました。	【施】PFI方式で整備する2地区について事業者と契約を締結し、従来方式で整備する1地区で基本・実施設計に着手しました。 【防】防災に関する情報をまとめた「町田市防災WEBポータル」及び「町田防災カレッジ」にて様々な情報発信を実施しました。障がい者、高齢者、乳幼児等の要配慮者における災害時の生活環境改善のため、エアーマット用のポンプを配備することに加え、乳幼児用の液体ミルク及び哺乳瓶を整備しました。また、個食需要を鑑み、炊き出し食と個食の割合の見直しを行い、個食数を増やすため、数年かけて段階的な整備に努めています。 【防】避難施設開設訓練や防災教育等でマンホールトイレの周知を行っています。マンホールトイレを整備しない都立高校等8施設については、代替としてラップ式トイレを導入しました。

24-4 プロセス評価

凡例【施】：施設課 【防】：防災課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【防】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【防】市内特別支援学校との懇談会時に保護者等の方々からご意見をいただき、アルファ化米の個食パック化やユニバーサルデザインに配慮した備蓄食料の検討を実施しました。	【防】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【防】市内特別支援学校との懇談会時に保護者や乳幼児妊産婦等の様々な方々からご意見をいただき、アルファ化米の個食パック化やユニバーサルフードの検討、液体ミルクや哺乳瓶整備を実施しました。
協働	【施】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【施】PFI 事業者の公募を行うにあたり、ユニバーサルデザインへの配慮を含めた要求水準書を公開し、質疑の機会を設けました。 【防】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【防】要配慮者の滞在スペースについて、地域との接点である避難施設関係者連絡会を 71 避難施設で開催し、自主防災組織等の地域住民へ周知・情報共有しました。	【施】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【施】PFI 事業者の公募を行うにあたり、ユニバーサルデザインへの配慮を含めた要求水準書に基づいて、事業者選定を実施しました。 【防】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【防】訓練等で備蓄食を食べる機会やエアーマットを膨らませることで、市民や学校と協働して事業を実施しました。また、台風災害時には市民にホームページを通して幅広く情報発信しました。
庁内連携	【施】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【施】新たな学校づくりに関係する各課と建替えに向けた連携・調整を随時図りながら、要求水準の作成や設計を進めました。 【防】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【防】要配慮者の滞在スペースについて、具体的な要配慮者の滞在スペースについて定めた避難施設データベ	【施】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【施】新たな学校づくりに関係する各課と建替えに向けた連携・調整を随時図りながら、事業者選定成や設計を進めました。 【防】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【防】防災システムへの入力を通じて、「町田市防災WEBポータル」での情報発信を行うことで、各避難施設開設・運営担当対策部及

《推進分野3》

	スを、各避難施設開設・運営担当対策部及び町田市指定職員に周知・情報共有を図りました。	び町田市指定職員に周知・情報共有を図りました。
広報・PR	【施】－：広報・PRは実施しなかった 【施】避難施設となる場所を含め、ユニバーサルデザインに配慮することを前提としているため。 【防】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【防】防災イベント情報や地域の取組みを発信している、情報ポータルサイト「まちだ防災カレッジ」にて周知しました。	【施】○：広報・PRを行う予定はなかったが、必要を感じ広報・PRを行った 【施】「まちだの新たな学校づくり通信」で、本町田地区・南成瀬地区の保護者や地域の方向けに、PFI事業により整備する新たな学校のイメージの広報を実施しました。 【防】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【防】2つのホームページを通じて、防災への興味の有無を包括する形で幅広く情報発信を行いました。

24-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【施】：施設課 【防】：防災課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【施】庁内各課と調整を図りながら、事業者公募に向けた要求水準を作成し、予定通り事業者公募を開始することができました。 【防】具体的な要配慮者の滞在スペースについて定めた避難施設データベースを、各避難施設開設・運営担当対策部及び町田市指定職員に周知・情報共有を図ることができました。 【防】地域との接点である避難施設関係者連絡会を71避難施設で開催し、自主防災組織等の地域住民へ周知・情報共有を図ることができました。 【防】障がい者、高齢者、乳幼児等の要配慮者に配慮するため、アルファ化米の個食パック化やユニバーサルデザインに配慮した備蓄食料の検討・導入を実施できました。	【施】庁内各課と調整を図りながら、事業者選定を行い、予定通り事業者との契約締結及び設計に着手することができました。 【防】防災に関する情報をまとめた「町田市防災WEBポータル」及び「町田防災カレッジ」にて様々な情報発信を実施しました。障がい者、高齢者、乳幼児等の要配慮者における災害時の生活環境改善のため、エアーマット用のポンプを配備することに加え、乳幼児用の液体ミルク及び哺乳瓶を整備しました。また、炊き出し食と個食の割合の見直しを行い、個食数を増やすため、数年かけて段階的な整備に努めています。

《推進分野3》

問題点、課題	【施】多数の課と連携し、短い期間で調整を図らなければいけないことが多かったため、全体でこまめに情報を共有することが必要でした。 【防】避難施設の各種案内表示など適切な情報提供について検討する必要があります。	【施】同左 【防】同左
次年度以降の対応策等	【施】新たに1校の建替えに向けた調整を始めるため、引き続き、こまめな連絡と情報共有をしていきます。 【防】避難施設の各種案内表示など適切な情報提供について更なる検討を行います。	【施】PFI手法で整備する2地区の設計に向け、引き続き連携を密にしながら取り組みを進めます。 【防】同左

25 避難行動要支援者名簿の作成

担当課：福祉総務課

25-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●避難行動要支援者名簿の作成・提供			

25-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
○：概ね順調	○：概ね順調

25-3 取組内容

2023 年度	2024 年度
・2022 年度に避難行動要支援者名簿の対象要件の見直しを行ったため、2023 年度から新たな要件で避難行動要支援者名簿を作成しました。作成した名簿は、災害に備え、消防・警察・社会福祉協議会等の関係者に提供を行いました。 ・2024 年度から稼働予定となっている、避難行動要支援者名簿の作成や管理等を行うための「避難行動要支援者等管理システム」のシステム構築を並行して行いました。	・例年通り、避難行動要支援者名簿を作成し、作成した名簿は、災害に備え、消防・警察・社会福祉協議会等の関係者に提供を行いました。 ・2024 年度から「避難行動要支援者等管理システム」を使用して、避難行動要支援者名簿の作成及び個別避難計画の管理を開始しました。

25-4 プロセス評価

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた名簿を提供する際に、提供先から意見をいただいています。	○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた同左
協働	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 災害に備え、平常時から避難行動要支援者を把握するため、消防・警察・市社会福祉協議会と、提供を希望する地区社会福祉	○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 災害に備え、平常時から避難行動要支援者を把握するため、消防・警察（町田、南大沢）・市社会福祉協議会・民生委員と提供

《推進分野3》

	協議会や町内会自治会・自主防災組織に名簿提供を行いました。	を希望する地区社会福祉協議会（南地区、鶴川地区）や町内会自治会（35 か所）・自主防災組織に名簿提供を行いました。
庁内連携	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 庁内関係課で組織する「個別避難計画作成検討作業部会」において作成における課題や対象者の抽出方法などを話し合い、連携して名簿の作成を行いました。また、災害に備えて関係各課に名簿を共有しました。	○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 庁内関係課で組織する「個別避難計画作成検討作業部会」において名簿の対象要件の見直しを行いました。また、災害に備えて関係各課に名簿を共有しました。
広報・PR	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた 名簿提供を希望する町内会・自治会・自主防災組織向けのマニュアルを市ホームページに掲載し、名簿提供について周知を図っています。	○：広報・PR を行う計画があり、計画どおりに実行できた 同左

25-5 実施にあたっての成果や課題等

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	新しい要件で避難行動要支援者の対象者を抽出して名簿作成を行うため、データ抽出方法等を関係課と協議して名簿作成を行い、併せて名簿に表示する項目の見直しも行いました。	新しいシステム内で、名簿作成とともに避難行動要支援者の家屋を表示する住宅地図を抽出できるようになり、地図の提供先である民生委員からは見やすくなったと好評いただきました。
問題点、課題	名簿の更新時期について、例年秋頃としていましたが、2024 年度の個別避難計画の作成開始に向けて名簿の更新時期の見直し（前倒し）を検討しています。	名簿は1年に1度更新をしているが、避難行動要支援者の状況の変化に対応し、最新の情報を維持するためには、名簿情報の更新頻度を上げる必要があり、住記システムや介護システム、福祉システムとの自動連携を含めた名簿の更新頻度や方法についての検討を進める必要があります。
次年度以降の対応策等	新たに「避難行動要支援者等管理システム」の運用が開始され、名簿作成が効率化される予定ですので、名簿の更新時期についても見直し（前倒し）したいと考えています。	名簿情報の更新頻度について、着手できるところから段階的に進めていくため、庁内で検討を行います。

26 二次避難施設（福祉避難所）の確保

担当課：障がい福祉課、いきいき総務課

26-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●二次避難施設（福祉避難所）の設置に関する協定締結			
	●二次避難施設（福祉避難所）開設訓練の実施（毎年度）			

26-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【障】◎：順調	【障】◎：順調
【い】○：概ね順調	【い】◎：順調

26-3 取組内容

凡例【障】：障がい福祉課 【い】：いきいき総務課

2023 年度	2024 年度
【障】22 か所の二次避難施設（福祉避難所）と協定を継続して締結しました。 【障】2024 年 12 月 16 日に二次避難施設開設訓練を行いました。 【い】高齢者福祉施設と障がい者福祉施設の合同の二次避難施設調整会議を実施し、市と協定締結施設及び協定締結施設間での情報共有と意見交換を行いました。 【い】特別養護老人ホームかりん・町田で二次避難施設開設訓練を実施しました。輸送訓練と合同で実施することで、発災時の要配慮者移送の連携体制を確認しました。	【障】22 か所の二次避難施設（福祉避難所）と協定を継続して締結しました。 【障】2024 年 9 月に二次避難施設（福祉避難所）協定しているすべての施設の現地確認を行いました。 【障】2024 年 10 月に二次避難施設（福祉避難所）開設訓練を行いました。 【障】2025 年 1 月に二次避難施設（福祉避難所）調整会議を書面により開催しました。 【い】高齢者福祉施設と障がい者福祉施設の合同の二次避難施設調整会議を書面開催で実施し、二次避難施設連絡票のオンライン申請の操作確認と、より実効性のある申請について検討を行いました。 【い】特別養護老人ホームいづみの里で二次避難施設開設訓練を実施しました。輸送訓練と合同で実施することで、発災時の要配慮者移送の連携体制を確認しました。

26-4 プロセス評価

凡例【障】：障がい福祉課 【い】：いきいき総務課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【障】【い】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【障】【い】二次避難施設（福祉避難所）調整会議、二次避難施設（福祉避難所）避難訓練を実施した後に、対象施設から意見をいただいたので今後の事業の参考にします。	【障】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【障】9月に行った二次避難施設（福祉避難所）すべての現地確認の際に、対象施設から意見をいただいたので今後の事業の参考にします。 【い】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【い】同左
協働	【障】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】二次避難施設（福祉避難所）の協定、二次避難施設（福祉避難所）開設訓練について、社会福祉法人などの事業者と協働して事業を実施しました。 【い】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】町田市の地域防災計画の改定にあたり、二次避難施設や福祉避難所のあり方について、二次避難施設調整会議にて、事業者と協働で検討しました。 【い】二次避難施設開設訓練について、移送訓練と一体的に実施し、事業者と共に、開設前の調整から移送、二次避難施設での受け入れまでの一連の流れを確認しました。	【障】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】同左 【い】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】二次避難施設連絡票のオンライン申請の操作確認を行い、より実効性のある申請について、事業者と協働で検討しました。 【い】同左

《推進分野3》

庁内連携	【障】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】二次避難施設（福祉避難所）調整会議をいきいき総務課や防災課と連携して開催しました。 【障】二次避難施設（福祉避難所）開設訓練についていきいき総務課、福祉総務課と連携して開催しました。 【い】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】地域防災計画の担当である防災課、障がい者福祉の二次避難施設を担当している障がい福祉課と連携して二次避難施設調整会議の企画や準備、当日の運営を行いました。 【い】避難輸送の協定を締結している福祉総務課、障がい者福祉の二次避難施設を担当している障がい福祉課と連携して、発災時の要配慮者支援について確認を行いました。	【障】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】同左 【障】同左 【い】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】二次避難施設を担当している障がい福祉課、福祉施設との連絡調整を行う福祉総務課、指導監査課と連携して二次避難施設連絡票のオンライン申請を作成しました。 【い】同左
広報・PR	【障】【い】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【障】【い】二次避難施設（福祉避難所）については既に町田市ホームページで公開しています。	【障】【い】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【障】【い】同左

26-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【障】：障がい福祉課

【い】：いきいき総務課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【障】各施設への情報提供に関しては、いきいき総務課、防災課と情報共有をして同じものになるようにしています。 【い】町田市地域防災計画の改定にあたり、協定締結施設と意見交換を行うことで、福祉避難所の項目について、市の現状を反映させた計画にすることができました。 【い】施設との事前調整から二次避難施設の受け入れまでを一体的に訓練することで、災害時の要配慮者支援の一連の流れを検証することができました。	【障】同左 【い】二次避難施設連絡票をオンライン申請にしたことで、エクセルをメールで送付するよりも効率化できるという意見が事業者や庁内から多く挙がりました。 【い】同左
問題点、課題	【障】二次避難施設（福祉避難所）を開設するにあたって、災害時の伝達方法や施設の備蓄品の備蓄品などが課題です。 【い】いきいき総務課や障がい福祉課で協定を締結している二次避難施設だけでは、要配慮者の避難先として不十分です。一般の避難所の環境整備や直接避難できる福祉避難所の指定など、他の防災の施策との連携が必要であると考えます。 【い】庁内での避難輸送の依頼方法について、地域防災計画や新たな防災システムと整合を図って整備する必要があります。	【障】同左 【い】同左 【い】庁内での避難輸送の依頼方法について、新たな防災システムの使い方を具体的に決める必要があると考えます。
次年度以降の対応策等	【障】町田市地域防災計画が2023年度で修正となったため、修正点に合わせたマニュアル等の検討が必要です。 【い】要配慮者の避難先について、防災課と調整を行い、引き続き検討を行います。 【い】次年度の訓練実施前に、庁内での避難輸送の依頼方法について、担当課で検討を行います。	【障】町田市地域防災計画に合わせたマニュアル等の検討が必要です。 【い】同左 【い】次年度の訓練実施前に、新たな防災システムの具体的な仕様方法について、担当課で検討を行います。

27 避難経路等のユニバーサルデザイン整備

担当課：道路整備課、住宅課

27-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●無電柱化整備			
	整備済延長 (累計) 4.98km	(累計) 4.98km	(累計) 4.98km	(累計) 5.88km
	●ブロック塀等撤去助成			

27-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【整】◎：順調	【整】◎：順調
【住】○：概ね順調	【住】○：概ね順調

27-3 取組内容

凡例【整】：道路整備課 【住】：住宅課

2023 年度	2024 年度
【整】早期に工事を発注したことや発注後の進捗管理を徹底したことで、予定通り工事を完了しました。 【住】2023 年 4 月 1 日から助成を開始し、8 件の申請に対し助成を行いました。	【整】同左 【住】2024 年 4 月 1 日から助成を開始し、11 件の申請に対し助成を行いました。

27-4 プロセス評価

凡例【整】：道路整備課 【住】：住宅課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【整】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【整】過年度に説明会にて意見聴取を実施済み。	【整】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【整】同左
協働	【整】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【整】過年度に説明会にて意見聴取を実施済み。	【整】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【整】同左

《推進分野3》

庁内連携	【住】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【住】助成にあたって、道路管理課による「狭あい道路拡幅整備事業」と重複して支援することを避けるため、該当する可能性がある場合は照会しています。	【住】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【住】同左
広報・PR	【整】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【整】工事情報をホームページに掲載しました。 【住】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【住】助成開始について広報およびホームページで十分に周知しました。 【住】また、木造住宅耐震助成の対象者に送付するダイレクトメールにも制度周知のチラシを同封しました。	【整】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【整】同左 【住】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【住】同左 【住】同左

27-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【整】：道路整備課 【住】：住宅課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【整】交通量の多い供用中の道路に交通規制をかけながらの作業となることから、道路利用者や近隣住民からの苦情が多く対応に苦労したが、工事のお知らせや現場周辺に工事看板を複数設置する等の対策を講じ無事に工事を完了しました。 【住】別で木造住宅耐震助成の対象者に送付しているダイレクトメールにチラシを同封するなどして、周知に努めました。 【住】助成実績 8 件	【整】同左 【住】同左 【住】助成実績 11 件
問題点、課題	【整】工事延長が長く、伐採・道路改良・電線共同溝工事と工事施工量が多く、工程管理が課題であります。 【住】助成件数が減少傾向にあります。 【住】市内沿道のブロック塀すべてが対象となる一方、ブロック塀等の築造のあたり必ずしも手続きが必要ないため、物量的に総数把握が困難であります。	【整】同左 【住】同左
次年度以降の対応策等	【整】工事を早期発注し工事進捗管理を徹底し年度内に完了します。 【住】引き続き周知に努めます。	【整】同左 【住】同左

28 避難輸送の体制整備

担当課：福祉総務課、障がい福祉課、いきいき総務課、社会福祉協議会

28-1 実施目標

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
実施目標	●協定先の拡充検討		●検討結果に基づく新たな協定先の拡充	
	●避難輸送訓練の実施（毎年度）			

28-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【福】◎：順調	【福】○：概ね順調
【障】◎：順調	【障】◎：順調
【い】○：概ね順調	【い】◎：順調
【協】○：概ね順調	【協】○：概ね順調

28-3 取組内容

凡例【福】：福祉総務課 【障】：障がい福祉課 【い】：いきいき総務課 【協】：社会福祉協議会

2023 年度	2024 年度
【福】福祉総務課で実施している避難輸送訓練について、障がい福祉課、いきいき総務課が実施する二次避難施設開設訓練と合同で行い、災害時の避難行動要支援者の円滑な移送に向けた訓練を実施することができました。 【障】町田市福祉輸送サービス共同配車センター事業、町田市市民外出支援サービス事業及び町田市やまゆり号運行サービス事業の協定に規定する避難輸送について、町田市総合防災訓練の開催に併せ、発災を想定した実動訓練を実施しました。 【い】輸送訓練を二次避難施設開設訓練と一体的に実施し、発災時の要配慮者移送の連携体制を確認しました。	【福】同左 【福】協定先については検討しましたが、その後の運用面のスキームが確立できなかったため、共同配車センターの今後の在り方と同時に協定先についても見直していきます。 【障】同左 【い】同左

《推進分野3》

【協】2023年12月16日（日）に忠生地区にて災害時における避難行動要援護者の避難輸送訓練を実施しました。訓練には町田市（福祉総務課、障がい福祉課、いきいき総務課）、共同配車センター、NPO法人町田ハンディキャプ友の会、小田急交通南多摩株式会社、社会福祉協議会（以下、社協）が参加し、あいちゃん号及びやまゆり号を使用し、一次避難施設（忠生第三小学校を想定）から二次避難施設（町田荘及び特別養護老人かりん・町田）への輸送を実施しました。	【協】2024年10月5日（土）、町田地区で災害時の避難行動要援護者の避難輸送訓練を実施しました。訓練には町田市（福祉総務課、障がい福祉課、いきいき総務課）、共同配車センター、NPO法人町田ハンディキャプ友の会、小田急交通南多摩株式会社、社会福祉協議会が参加しました。あいちゃん号及びやまゆり号を使用し、一次避難施設（町田第一小学校を想定）から二次避難施設（プラスアルファ及び七五三会 いづみの里）への輸送を実施しました。
---	--

28-4 プロセス評価

凡例【福】：福祉総務課 【障】：障がい福祉課 【い】：いきいき総務課 【協】：社会福祉協議会

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【福】【障】【い】◎：意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【福】【障】【い】避難輸送訓練で指定する二次避難施設と、当日の役割を確認して情報共有を行ったうえで実施しました。	【福】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】訓練に参加した当事者より、「迅速で円滑な移送ができていた」というご意見をいただきました。 【障】【い】◎：意見聴取を実施する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【障】【い】同左
協働	【福】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】避難輸送訓練に係る事業者と綿密な連絡を取り、訓練を実施することができました。また、実施後は振り返りを行い、次年度への課題を共有しました。	【福】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】避難輸送訓練に係る事業者と綿密な連絡を取り、訓練を実施し、実施後は振り返りを行い、次年度への課題を共有しました。 【福】昨年度の訓練後の振り返りから、連絡体制に課題があったため、今回の取組で初めて、市と事業所間の連絡をメールで行いました。

《推進分野3》

【障】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】指定事業所と実施にむけて、当日の運営や流れについて情報を共有して訓練を行いました。 【障】参加者：忠生地域障がい者支援施設1か所、(施設3名、輸送事業者2名、障がい福祉課2名、市担当者6名) 【い】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】移送訓練及び二次避難施設開設訓練では、それぞれの事業者と共に、開設前の調整から移送、二次避難施設での受け入れまでの一連の流れを確認しました。 【協】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】2023年12月16日(日)に忠生地区において避難輸送訓練を実施しました。町田市(福祉総務課、障がい福祉課、いきいき総務課)、共同配車センター、NPO法人町田ハンディキャプ友の会、小田急交通南多摩株式会社、社協の13名が参加し、車両2両(あいちゃん号及びやまゆり号)を使用して一次避難施設から二次避難施設への輸送訓練を実施しました。	【障】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】同左 【障】参加者：町田地域障がい者支援施設1か所、(施設1名、輸送事業者1名、障がい福祉課5名) 【い】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】同左 【協】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【協】2024年10月5日(土)、町田地区で災害時の避難行動要援護者の避難輸送訓練を実施しました。訓練には町田市(福祉総務課、障がい福祉課、いきいき総務課)、共同配車センター、NPO法人町田ハンディキャプ友の会、小田急交通南多摩株式会社、社会福祉協議会が参加しました。あいちゃん号及びやまゆり号を使用し、一次避難施設(町田第一小学校を想定)から二次避難施設(プラスアルファ及び七五三会いづみの里)への輸送を実施しました。
---	--

《推進分野3》

庁内連携	【福】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【福】訓練を実施するに当たって、二次避難施設開設訓練を行っている障がい福祉課、いきいき総務課と連携して、訓練の流れの確認や振り返りを行いました。 【障】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】二次避難施設開設・避難輸送訓練にむけて、福祉総務課、いきいき総務課、障がい福祉課で会議や情報共有をチャットで確認しながら、訓練を実施しました。 【い】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】避難輸送の協定を締結している福祉総務課、障がい者福祉の二次避難施設を担当している障がい福祉課と合同で訓練を実施し、発災時の要配慮者支援について確認を行いました。	【福】◎：庁内各課と連携する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【福】同左 【福】庁内の連絡に防災システムを使用し、災害時の連絡方法の拡充を行いました。 【障】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】同左 【い】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】同左
-------------	---	---

28-5 実施にあたっての成果や課題等 凡例【福】：福祉総務課 【障】：障がい福祉課 【い】：いきいき総務課 【協】：社会福祉協議会

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【福】訓練の実施に当たって、二次避難施設開設訓練の担当課と連携し、流れの確認や振り返りを行い、次年度に向けた課題の洗い出しを行うことができました。 【障】新型コロナウイルス感染症の位置づけは、令和5年5月8日から「5類感染症」になりました。しかし、感染拡大防止策を検討して、訓練では施設内に受け入れの避難所開設は仮想の開設とすることで、事業者にも了承を事前にもらうことで、当日の混乱を避けることができました。 【い】移送と合わせて、二次避難施設との事前調整から受け入れまでを一体的に訓練することができ、災害時の要配慮者支援の一連の流れを検証することができました。 【協】町田市（福祉総務課）、共同配車センター、NPO法人町田ハンディキャプ友の会、小田急交通南多摩株式会社、社協間で事前に連絡方法や輸送経路など訓練の流れを十分に確認したうえで訓練に臨み、無事に実施することができました。輸送を担当する運転員は忠生地区に近い方に依頼することで、地域にある一次避難施設及び二次避難施設の把握に繋がるように訓練を実施しました。	【福】同左 【福】今回の取組で初めて、市と事業所間の連絡をメールで行い、さらに各課間の連絡には防災システムを活用する訓練を実施し、緊急時の連絡手段の選択肢の拡充を行いました。 【障】避難輸送訓練では、災害時に町田街道などの主要道路が交通規制で使用できなくなる事を想定したルートで、二次避難施設へ移動しました。 【い】同左 【い】新たな防災システムを使って輸送依頼を送付しました。 【協】訓練に参加する町田市（福祉総務課）、共同配車センター、NPO法人町田ハンディキャプ友の会、小田急交通南多摩株式会社、社会福祉協議会で事前に連絡方法や輸送経路など訓練の流れを十分に確認したことで無事に実施されました。輸送を担当する運転員は忠生地区に近い方に依頼し、地域の一次避難施設及び二次避難施設の把握に繋がるように工夫しました。

《推進分野3》

問題点、課題	【福】連絡体制について、現状のファックスを使用した連絡では職員がすぐに対応できない可能性があることがわかったため、次回からはすぐに対応可能なメールを使用した連絡体制で訓練を行う必要があります。 【障】二次避難施設の了承が得られていても、施設ごとに避難スペース、受け入れられる人数、備蓄品、設備等に不安を抱えている現状があります。各施設の課題を確認する作業が求められています。 【い】庁内での避難輸送の依頼方法について、地域防災計画や新たな防災システムと整合を図って整備する必要があります。 【協】○連絡方法の確認 ○運転員の確保と参集 ○輸送ルートの確認と確保 ・災害時には支援者も被災者となり得るため運転員の確保と参集が迅速に行われない可能性があります。また、建物の倒壊や道路の陥没など道路状況によっては輸送ルートの確保が困難となる場合も考えられます。その他、通信インフラの被害状況によっては連絡や依頼方法についての検討などを行う必要があります。	【福】防災システムの連絡方法が確認しきれなかったため、訓練時の連絡体制については少し苦戦しました。 【障】同左 【い】新たな防災システムを使った輸送依頼について、具体的な流れを検討する必要があります。 【協】○連絡方法の確認 ○運転員の確保と参集 ○輸送ルートの確認と確保 ・災害時には支援者も被災者となる可能性があるため、運転員の確保と迅速な参集が難しい場合があります。また、建物の倒壊や道路の陥没などにより、輸送ルートの確保が困難になることも考えられます。さらに、通信インフラの被害状況によっては、連絡や依頼方法の検討も必要です。
次年度以降の対応策等	【福】二次避難施設開設訓練で出た課題と合わせて、解決策を講じながら、より実効性の高い訓練を行います。 【障】二次避難施設の抱える課題を確認するとともに、関係する会議体で発信できる取り組みを検討していきます。 【い】次年度の訓練実施前に、庁内での避難輸送の依頼方法について、担当課で検討を行います。 【協】各種ハザードマップを活用した輸送ルートの確認や運転員への依頼の順位、輸送や配車に関する依頼方法の確認、試行などを踏まえて次年度以降の訓練について定例会議等で検討を行います。	【福】引き続き、輸送ルートについて、非常時に使用できるかなど、道路の状態等を考慮した訓練内容を実施します。 【障】同左 【い】次年度の訓練実施前に、庁内での避難輸送の依頼の具体的な流れについて、担当課で検討を行います。 【協】各種ハザードマップを活用して輸送ルートを確認し、運転員への依頼順位や輸送・配車に関する依頼方法を検討します。これらの試行を踏まえ、次年度以降の訓練について定例会議で検討を行います。

29 防災情報のユニバーサルデザイン整備

担当課：広報課、防災課

29-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
	●多様な媒体による防災情報の発信			

29-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【広】◎：順調 【防】◎：順調	【広】◎：順調 【防】○：概ね順調

29-3 取組内容

凡例 【広】：広報課 【防】：防災課

2023 年度	2024 年度
【広】市のホームページの非常時用トップページへの切替訓練を実施しました。 【広】風水害時に市民生活への影響が予想される際に、市のホームページのトップページのお知らせに「悪天候に伴うお知らせ」を掲載しました。 【広】市のホームページのブランディングエリアに「町田市 WEB 防災ポータル」のリンクを表示しました。 【防】町田市防災システムの更改に併せて、市民向け防災ポータルサイトを開設しました。 【防】平時においては、市内の天気や気象情報、ハザードマップ等の災害時に役立つ各種情報を掲載することで、事前の備えとして使ってもらえるようにし、災害時には、避難情報や避難施設の開設状況をスムーズに発信できるよう導入しました。	【広】町田市ホームページのリニューアルを実施し、ホームページ内の文章を平易な日本語に自動変換する機能を搭載しました。また、緊急時には各コンテンツにもお知らせを掲載できるように改修しました。 【広】同左 【広】同左 【防】小中学校等の避難施設（60 施設）にホームルーターを6台ずつ配備し、災害時においても避難施設でインターネット通信ができる環境を整備しました。 【防】避難施設関係者連絡会や避難施設開設訓練を通じて、地域住民に対して、防災WEBポータルの周知を行いました。

29-4 プロセス評価

凡例【広】：広報課 【防】：防災課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【広】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【広】市のホームページには、当事者のみならず、閲覧者が意見を投稿できるようになっております。	【広】△：意見聴取を実施する予定はなかったが、意見聴取の機会を得た 【広】市のホームページは、必要に応じて当事者を含む閲覧者が意見を投稿できるようになっているため、意見聴取等はいませんでした。
庁内連携	【広】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【広】防災課などの関係部署と協議して、適切な周知方法を検討しました。 【防】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【防】デジタル戦略室と連携して導入することができました。	【広】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【広】同左 【防】◎：庁内各課と連携する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【防】指導課で市内の小中学校にホームルータを配置する予定があったが、災害時においてもホームルータを活用することを教育委員会と調整し、了解を得ました。このホームルータの購入と設置について、災害時に活用することで都の補助金を得ることができ、かつ、計画よりも前倒しで導入できました。
広報・PR	【広】◎：広報・PRを行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【広】広報まちだ6月1日号の1、2面で、防災に関する市の取組みの周知を行いました。 【防】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【防】全市民を対象に、広報まちだ、町田市ホームページ、町内会・自治会への資料送付等による広報・PRを実施しました。	【広】◎：広報・PRを行う計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【広】広報まちだ2月1日号で、ホームページのリニューアルについて周知を行いました。 【防】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【防】町田市防災WEBポータルについては、町田市ホームページのトップページにリンクを貼って、PRを行いました。

29-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【広】：広報課

【防】：防災課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【広】災害時に迅速に情報発信が行えるように、市のホームページの非常用トップページへの切替訓練を行いました。 【防】【防】市民向け防災ポータルサイトの開設により情報発信手段の更なる多重化が図られました。 【防】広報課と打合せを実施し、町田市ホームページと連携した情報発信を行えるよう工夫しました。 【防】災害時や災害に備えた市からのお知らせを迅速に行えるようになりました。	【広】様々な背景を持つ方でも今まで以上に利用しやすくなるよう、町田市ホームページのリニューアルを実施しました。 【防】指導課で市内の小中学校にホームルータを配置する予定があったが、災害時においてもホームルータを活用することを教育委員会と調整し、了解を得た。このホームルータの購入と設置について、災害時に活用することで都の補助金を得ることができ、かつ、計画より前倒しで導入できました。 【防】町田市防災WEBポータルについては、町田市ホームページのトップページにリンクを貼って、PRを行いました。
問題点、課題	【広】防災情報をまとめたページである「町田市WEB防災ポータル」への誘導方法の検討が必要です。 【防】今年度開設したサイトであるため認知度がまだ不十分です。	【広】同左 【防】視覚障がい者は生命を守る情報が取得しづらいため、避難施設の確認等、災害時に必要な情報を取得しやすい環境を整備する必要があります。 【防】小中学校等に設置したWi-Fiの運用方法を検討し、災害時の運用を決定する必要があります。 【防】町田市防災WEBポータルの周知を引き続き行うことで、認知度を高める必要があります。
次年度以降の対応策等	【広】防災情報をまとめたページである「町田市WEB防災ポータル」への誘導方法の検討をします。 【防】市民向け防災ポータルサイトの更なる周知方法を検討します。	【広】リニューアルに伴い災害時に使用できる機能が増加していたことから、災害を想定した訓練を実施する必要があります。 【防】視覚障がい者が災害時に必要な情報を取得しやすくするために、耳で聴くハザードマップの導入を検討します。 【防】小中学校等に配置したホームルータを災害時に運用するためのルール作りを検討します。 【防】避難施設関係者連絡会や避難施設開設訓練の場で、町田市防災WEBポータルの周知を引き続き行います。

30 災害時における社会福祉施設等の情報共有体制整備

担当課：障がい福祉課、いきいき総務課、子ども総務課

30-1 実施目標

実施目標	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
●情報共有体制整備及び必要に応じた見直し				
●情報伝達訓練の実施（毎年度）				

30-2 事業実施の進捗状況

2023 年度	2024 年度
【障】○：概ね順調	【障】○：概ね順調
【い】○：概ね順調	【い】○：概ね順調
【子】◎：順調	【子】◎：順調

30-3 取組内容

凡例【障】：障がい福祉課 【い】：いきいき総務課 【子】：子ども総務課

2023 年度	2024 年度
【障】二次避難施設（福祉避難所）調整会議を開催し、情報共有体制についてミーティングを行いました。 【い】情報共有体制の見直しについては、オンライン化に向けて検討を実施しました。 【い】情報伝達訓練を実施し、市内全介護サービス事業所、高齢者福祉施設等と、災害時の情報共有体制の確認を行いました。 【子】子ども生活部所管施設について、9月1日に子ども生活部所管施設を対象とした情報伝達訓練を実施しました。 【子】訓練では、「児童福祉施設等災害時情報共有システム」等を使用し、各施設の被災状況を集約し、集約した内容について、6月から新たに開設された「町田市防災 WEB ポータル」に情報を掲載することで、保護者等が閲覧できるようにしました。	【障】町田市障害福祉サービス事業所等災害時情報伝達訓練を実施しました。 【い】情報共有体制の見直しについては、二次避難施設のみを対象とした様式の申請をオンライン化しました。 【い】同左 【子】子ども生活部所管施設について、9月2日に子ども生活部所管施設を対象とした情報伝達訓練を実施予定でしたが、台風10号への対応と重なったため、直前で訓練を中止しました。

30-4 プロセス評価

凡例【障】：障がい福祉課 【い】：いきいき総務課 【子】：子ども総務課

	2023 年度	2024 年度
意見聴取	【障】【い】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】【い】二次避難施設（福祉避難所）調整会議を開催後に、対象施設から意見をいただいたので今後の事業の参考にします。 【子】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【子】訓練の参加者やまちだ子育てサイトを閲覧した方に向けて、訓練についての感想やご意見を募集しました。 【子】ご意見を参考に、翌年度以降の訓練がより有効なものとなるように見直しを図ります。	【障】【い】○：意見聴取を実施する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】【い】同左 【子】－：意見聴取を実施しなかった 【子】訓練の参加者やまちだ子育てサイトを閲覧した方に向けて、訓練についての感想やご意見を募集する予定でしたが、訓練中止となったため実施していません。
協働	【障】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】二次避難施設（福祉避難所）の協定、二次避難社会福祉法人などの事業者と協働して事業を実施しました。 【い】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】市と事業者間において、連携体制を構築する事業のためです。	【障】◎：事業者や団体と協働する計画があり、計画内容以上の積極的な取組を行った 【障】情報伝達訓練については、131 事業所に参加いただきました。今年度の情報伝達訓練ではメールでのやり取りだけではなく、新たにオンライン申請による情報伝達ができるよう整備しました。 【い】○：事業者や団体と協働する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】情報伝達訓練については、373 事業所に参加いただきました。今年度の情報伝達訓練ではメールでのやり取りだけではなく、新たにオンライン申請による情報伝達ができるよう整備しました。

《推進分野3》

庁内連携	【障】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】二次避難施設（福祉避難所）調整会議をいきいき総務課や防災課と連携して開催し、各施設の情報や意見を共有しました。 【い】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】障がい福祉施設の情報伝達を担当する指導監査課と、訓練の実施前後で打合せを行い、改善に向けた課題共有を行いました。 【い】情報共有体制の見直しにあたって、デジタル戦略室の実施するデジタル活用相談会に参加しました。 【子】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【子】防災課とも連携して実施したことで、より実際の流れに近い形での訓練実施を行うことが出来ました。 【子】子ども生活部所管施設の運営事業者等と連携し、保護者への訓練周知や参加の呼びかけを行いました。	【障】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【障】町田市障害福祉サービス事業所等災害時情報伝達訓練はいきいき総務課、指導監査課、福祉総務課と連携しておこないました。 【い】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【い】障がい福祉施設の情報伝達を担当する指導監査課と、打合せを行い、改善に向けた課題共有を行いました。 【い】障がい福祉施設の二次避難施設を担当する障がい福祉課、福祉対策部の事務局を担当する福祉総務課とも連携を取りながら、様式のオンライン化をしました。 【子】○：庁内各課と連携する計画があり、計画どおりに実行できた 【子】直前で中止となったため、訓練当日の連携は出来なかったものの、訓練に向けた事前の調整においては防災課や子ども生活部所管施設の運営事業者等と連携しながら進めることが出来ました。
広報・PR	【障】【い】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【障】【い】二次避難施設（福祉避難所）については既に町田市ホームページで公開しています。 【子】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【子】訓練当日に、各所管施設の訓練参加状況や実際に発災した際の情報公開イメージなどが確認できるよう、「町田市防災WEBポータル」において情報を掲載しました。 【子】運営事業者や保護者等が閲覧した結果、「町田市防災	【障】【い】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【障】【い】同左 【子】○：広報・PRを行う計画があり、計画どおりに実行できた 【子】まちだ子育てサイトや町田市防災WEBポータルにおいて、訓練の事前周知を行いました。

	WEB ポータル」のアクセス数は 6,634 件（平常時の約 15 倍）となりました。	
--	---	--

30-5 実施にあたっての成果や課題等

凡例【障】：障がい福祉課

【い】：いきいき総務課

【子】：子ども総務課

	2023 年度	2024 年度
実施にあたり工夫したこと、成果	【障】各施設への情報提供に関しては、いきいき総務課、防災課と情報共有をして同じものになるようにしています。 【い】情報共有体制の見直しについては、次年度 Graffer を使ったオンライン集計へ切り替えていくことになりました。 【い】情報伝達訓練については、43%の事業所にご参加いただくことができました。 【子】従来の「まちだ子育てサイト」から、発災時に市の防災情報が集約される「町田市防災 WEB ポータル」にて被災状況等を発信するように変更し、情報アクセス先を統一しました。 【子】防災課と連携して実施したことで、より実際の流れに近い形での訓練実施となりました。	【障】今年度の情報伝達訓練ではファイルをメールでやり取りする方法だけではなく、新たにオンライン申請による情報伝達ができるよう整備しスマートフォンでの情報伝達が可能になりました。 【障】情報伝達訓練については、65.5%の事業所にご参加いただくことができました。 【い】二次避難施設を対象とした様式をオンライン化したことで、申請や集計が簡単にできる用になり、事業者と市双方にメリットがありました。 【い】情報伝達訓練については、55%の事業所にご参加いただくことができました。 【子】実際に訓練は行えなかったものの、防災課や子ども生活部所管施設の運営事業者等と連携して実施したことで、より実際の流れに近い形での訓練設計となりました。
問題点、課題	【障】二次避難施設（福祉避難所）を開設するにあたって、災害時の伝達方法や施設の備蓄品の備蓄品などが課題です。 【い】オンライン集計へ切り替えをするにあたり、申請内容の精査が必要です。精査にあたっては、安否不明者一覧の取りまとめを行う地域福祉部と連携して検討していく必要があります。 【い】情報伝達訓練の参加率が低下しています。	【障】対象事業所は 200 事業所中、参加した事業所は 131 事業所であり、全体の約 62%であったので、参加事業所を増やす必要があります。 【障】訓練の開催通知が届いていないという事業所もありました。 【い】国の災害時情報共有システムと申請内容が重複しており、災害時に混乱を招く恐れがあります。 【い】情報伝達訓練の参加率を上げる必要があります。

《推進分野3》

	【子】こども家庭庁が所管する「児童福祉施設等災害時情報共有システム」に各施設が登録しているアドレス宛にメールが送信され、被災状況等を入力する流れで訓練を行っておりますが、アドレスの不備や変更によりメールが届かない施設への対応や登録アドレスの更新管理については、今後検討が必要です。	【子】こども家庭庁が所管する「児童福祉施設等災害時情報共有システム」に各施設が登録しているアドレス宛にメールが送信され、被災状況等を入力する流れで訓練を行っておりますが、登録アドレスの更新管理については今後検討が必要です。
次年度以降の 対応策等	【障】町田市地域防災計画が2023年度で修正となったため、修正点に合わせたマニュアル等の検討が必要であります。 【い】オンライン集計で収集する情報について、地域福祉部と連携しながら検討を行います。 【い】これまで訓練開始予告メールの送付のみでしたが、開始時間に合わせてメールを送信する等、訓練への参加の呼びかけの方法を工夫します。 【子】訓練の前に各施設へ登録アドレスの再確認を呼びかけるなど、対策を講じる予定です。	【障】メールアドレスを再確認し、全事業所への通知が必ず届くよう整備します。 【い】国の災害時情報共有システムと市の収集内容を比較し、統合や整理を行います。 【い】各事業所の連絡会等で、訓練について周知を行います。 【子】各施設へ登録アドレスの再確認を年に1度呼びかける機会を設けるなど、対策を講じる予定です。